

# 潮 陵

発行日 平成29年12月  
発行元 東京潮陵樽中会  
事務局 浦安市日の出1-3-22-406  
南澤孝夫 方  
Tel 080-5498-8305  
e-mail info@choryo.org  
HP http://www.choryo.org/

会報14号 東京潮陵樽中会 創立60周年記念号 第1部

## 会長挨拶 「次の時代につなぐもの」

本会の創立60周年事業の母校での「OB 出前セミナー」が、学校のご協力の元、無事終了致しました。また、「アンケート調査」では、62名のOB&OGから回答が寄せられました。中央で活躍のOB&OGの失敗や成功の機微を伝える事で、現役後輩に、進路の選択や目標の設定に役立てて頂こうと企画したものです。「アンケート調査」で寄せられた回答は、60周年記念誌へ全文掲載致しました。高年齢ほど優秀だった事が見えます。「OB 出前セミナー」は、今回、4名の理系50歳代、60歳代のそれぞれの現役・1浪・2浪の進路や経歴を通した、各分野での失敗や成功の機微を伝えるリレー講演を致しました。学歴・肩書き・文字では伝えられない人生を通しての伝達は、何か重要なエッセンスを伝えられたのではと考えて居ります。潮陵OB&OGは、芸術・技術・海外進出・産業・学会など多方面で活躍されております。これからも機会があれば、色々な分野毎の「OB 出前セミナー」を継続できればと考えて居ります。

本会の活動は、①5月頃の「新人歓迎会＋総会」：新旧同窓生の出会いの場と、②12月頃の「同釜会(おなかまかい)」：同じ釜の飯を食い会員同士の親睦を深める場の2会に加えて、③母校支援を行って来ました。宴席出席者は、毎年の時祭(ときまつり)として故郷と母校に思いを馳せ、仲間の健康と自身の存在確認し元気が出る会でもあります。宴席を好まない方にも違った関わりを模索し、母校支援のアンケートで参加していただけました。また、100周年事業から本会の役員をしていますが、潮陵倶楽部の周年事業も、金は出せ！口は出さな！の処遇。都会に出て知恵を生業としている私達にとっては、得意な知恵を封じられての活動は、とてもさびしい思いをしてきました。今回は、直接、現役生徒に知恵の部分伝えられ、この活動の継続性は、母校現役支援＋会員満足の両立の可能性も含んでおります。加えて、利用目的が明確な寄付は集まる傾向もあり、何時も会の会費＋有志寄付が集まります。

これまで60年の会は、数多いOB&OGのリレーで継

続されてきました。この60年は、日本が戦後の開発途上国状態から急成長しそして高度成長を遂げ、そして、人口もピークを過ぎ縮小の坂を下りかけている経過を進んでいる最中です。先行して、故郷小樽の人口もピークから半減し、私達の母校小樽潮陵も同様にピーク時の半数の生徒数に減少しました。会も、長年、成功者が会長に、加えて会長の会社全面協力運営していた時代から、無理をせずNPO的にみんなの会として、互いに大きなエネルギーを掛けずに継続運用する会へと転換して来ました。右肩上がり時代の手法でイベント企画し、負荷が掛り過ぎその後メンバーが不参加の苦い経験も有ったからこそ継続している会です。

今後は、母校への東京潮陵樽中会の会員の特性を生かした確りとした情報の発信を継続して行きたいと考えて居りますので、皆様の情報提供にもご協力ください。Facebookの活用やメール会員も増え、運営費は最小に抑える事もできました。次の課題は、コアメンバーの増員に向けて活動して行きたいと考えて居ります。私自身も含め、65歳引退の時代でもなく現役を継続しながらの活動を配慮した定期的な集まりを少しずつ増やして、次の世代に引き継ぎたいと考えて居ります。

とても少しずつの変化の東京潮陵樽中会ですが、久しぶりでも、時々でも、目的毎でも、機会ある時に新たな関わりをお願い致します。



あなたにも、「次の時代につなぐもの」が小さくても必ずあると思いますし、そんな事が次の世代につなげられることを願っています。

東京潮陵樽中会会長  
佐々島 宏 (65期)

## 創立 60 周年事業 「OB 出前セミナー」報告

当会の創立60周年事業の一貫として、「未来を切り開く潮陵らしい生き方とは？」という主題によるOB出前セミナーが、平成29年11月6日(月)に小樽潮陵高校の同窓会記念館で開催されました。演者は、大学卒業後、就職せずに建築家として起業し、14社を設立した佐々島 宏会長(65期)、研究者として米国、国内の大学をいくつも渡り歩き、現在は京都大学教授の田村 類さん(65期)、30代で技術者としての自分に見切りをつけて小樽に戻って起業し、趣味を仕事に、地域が元気になる活動を進めている日本スポーツ雪かき連盟代表の松代 弘之さん(75期)、そして、一貫して放射性医薬品の研究開発に携わり、昨年、40年間務めた製薬会社を退職したばかりの私、南澤 孝夫(65期)の4名です。当日は、1、2年生を中心とする在校生約60名が聴講してくれました。

セミナーは16時から、千葉 浩次 校長の開会の御挨拶の後、佐々島会長による講演「就学・就職の抜け道!? Work shift passfinding」でスタートしました。大学卒業後、就職せずに一級建築士として起業したものの、最初は国内の仕事に恵まれず、海外のリゾートや、沖縄、小笠原などの島々での建築設計の仕事に活路を見出したこと、しかし、海外の建築常識は日本の建築常識と異なるため失敗をしたこと、国内でも、24時間ピアノを弾ける部屋で住宅建築賞を受賞したものの、入居者が一向に集まらず、マーケティングの大切さを痛感したことなど、数々の失敗事例が紹介されました。そして、失敗を繰り返しながらも、多くの仕事を成し遂げた今、思うこととして、興味が有るならすぐ始めること、まずは実学や師事で大体理解すること、基礎は気づいた時に学ぶことで遅くはないこと、習うより教えることで知識が早く身につくこと、資格は2種類以上取ること、人生は30,000日も無いので今好きなことをやるべし、とのメッセージが伝えられました。

第2演者の私からは「人生は学びの連続」という題名で、40年の会社人生の中での一番の失敗と、一番心に残る成功について話しました。一番の失敗は、新米の開発部長時代、過去の成功体験にとらわれて世の中の変化に目を背けてしまい、3つの新薬の開発にすべて失敗したことです。過去の成功体験にとらわれること無く、何が最善かを考え抜き、変り続けることの大切さを学んだことを伝えました。一番心に残る成功は、失敗から10年後、ドラッグ・ラグが叫ばれていた放射性医薬品に着目し、患者の会からの支援も受けて開発、厚労省の承認を最短で獲得して早期発売できたことです。世の中の動き、ニーズを敏感に感じ取り、何

よりも患者第一を考えることでチャンスを掴むことができたこと、失敗の経験は必ず次の成功に活かせると学んだことを伝えました。

第3演者の松代さんからは「やりたいことをやろう！挑戦する勇気」という題名で、エリートの道を捨てて35歳で起業した後の山あり谷ありの人生が語られました。大手精密機器メーカーでの顕微鏡設計の毎日に疑問を持ち、退社。当時、普及が始まったパソコンで開発した競馬必勝法ソフトの通信販売で起業し、ソフトバンクグループに企業買収されて成功を収めたこと。しかし、東日本大震災を転機に価値観が大きく変わり、50歳で小樽に戻って二度目の起業をし、地域が元気になる活動に取り組んでいること。ピンチのときには、いつも助けてくれる人に出会えたことが語られました。そして、失敗を恐れずに挑戦しよう、失敗した分だけ強くなれる、夢中になれ、死に物狂いでやった者だけに成功は訪れる、夢を持とう、なるべく大きな夢を、とのメッセージが伝えられました。

最終演者の田村さんからは「発見は偶然生まれない・・・失敗は成功の母」という題名で講演が行われ、葛飾北斎、クロード・モネ、樂焼15代 樂 吉左衛門、ルイ・パストゥールの仕事ぶりが紹介されました。4人の共通点として、美(真理)の追求をモチベーションとして自己の世界を確立し、宇宙を意識した広範囲な活動を展開したこと、従って、芸術の美と自然の美と論理の美は共通であり、美(真理)の追求は芸術・学問を続ける原動力であること、意志あるところに道は開けること、好きこそ物の上手なれであること、が示されました。また、高校時代と大学時代にすべきこととして、将来、誰にでも巡ってくる運(チャンス)を確実にとらえるための準備を積極的かつ継続的に行うことの重要性が伝えられました。

最後に、佐々島会長から、予測することの大切さを示すエピソードを交えた閉会の挨拶があり、18時にセミナーを終了しました。

当日、生徒達は、熱心に講演に耳を傾けてくれました。大勢の前での質問は気が引けるのか、当日の会場での質疑は活発とは言えませんでした。後日、個別に演者に対して質問をもらいました。自分の進路や受験の悩みに関する相談が多かったようです。また、二人の生徒が、国際スポーツ雪かき選手権への参加を申し出てくれました。

後輩の在校生に先輩の生き様を見せることで、何かを感じ取ってもらえたでしょうか。生徒たちの将来の進路選択に、少しでも参考になればと願っています。



## 寄稿「人生の大きな選択を間近に控えた現役潮陵生へ」

坂本大介 94 期

東京都文京区に約 9 年住んでおりましたが、一度も東京潮陵樽中会の活動に参加せずに北海道に帰ってきてしまったことを大変反省しながらこの原稿を書いています。この原稿は潮陵倶楽部会報「潮陵」75 号(2012 年 3 月)に掲載された原稿に少し加筆修正したものです。丁度卒業式の頃に出版されたものかと思えます。当時はまだ 30 歳ということで、現役生よりも一回り上くらいの気持ちでしたが、いまは 36 歳ということでもう二回り近くも上になってしまいました。高校を卒業してからは丁度 18 年になります。もちろん、自分は先輩方からするとまだまだ若輩者だとは思いますが、少しでも現役生の進路設計の参考になればと思い、私のこれまでの人生の経験と、今までの私の経験からいくつか現役生に伝えたいことを最後に書いてみようと思えます。

まずは、当時の原稿からどうぞ。当時の原稿なのでいまは所属を含めていろいろと状況が変わっていますが、あえて修正していません。理由は最後まで読んでいただければわかるかと思えます。

### 1 潮陵時代から今までになにをしてきたか

僕はいま、東京大学大学院情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻という場所で助教をしています。学部としては理学部情報科学科になります。専門はユーザインタフェース、インタラクションデザインなど、人と情報機器との対話技術に関する研究を行っています。難しい言葉ばかりが並んでいますが、ざっくり説明すると次世代 IT 技術の中でも、パソコンやスマートフォンといったものだけじゃなく、未来の電化製品や家庭用ロボットを使いやすくするような研究だと思ってもらえると良いと思います。人とコンピュータが将来どのように関わり合いを持つのか、パソコンやロボットがどのような振る舞いをすると人にとって使いやすいのかというような、インタラクション(対話・相互作用)と呼ばれる技術とその設計について研究しています。総じ

て、パソコンとかスマートフォンだけではなく、ロボットなどについても使いやすくするのはどうしたら良いか、また、将来どのようなことが可能になるかを研究開発し、世の中に示していくような研究です。

### 高校時代

僕の場合、高校時代は勉強のできる学生ではなく、むしろ部活(放送局)ばかりやっているような学生でした。受験勉強にはほとんど興味はなかったし、予備校にも通わず、ただただ部活に熱中していたと思います。年がら年中部室に籠もり(いまもあるのだろうか?)、色々な番組を見たり、放送技術について学んだり、実際に番組を作ったりしていました。とはいえ、大体友人達とおしゃべりをしていたようにも思いますが(笑)でも、ある対象を分析して観察し、同時に技術を学んで実際に何かを作るというプロセスを数多く経験できたことは、今の研究活動と全く同じことをやっていたのだなあと思います。このころから僕は無自覚に「研究」ということが好きだったのかもしれませんが。これを受験勉強に生かせれば、、、、人生は違っていただろうかと思いません。

### 大学時代

高校を卒業したあとは、本当は北海道大学(北大)の文系学部に行きたかったのですが、当たり前のように受験に失敗し、当時(2000 年 4 月)丁度開学した公立はこだて未来大学(未来大)に進学しました。

一期生ということもあり、未来大では本当に素晴らしい体験を多くさせてもらいました。特に、未来大はコンピュータ・人工知能・ロボットや、芸術・デザイン、数学・生物学・物理学など、幅広い学問を扱う大学であり、かつそれぞれの分野において優秀な研究者が集まった大学で、いまでは研究業界では地方大学の中でも特に注目される存在になっています。また、情報系の大学としては多くの卒業生が大手企業に採用さ

れるなど、企業にも十分に名前の知られた大学です。未来大の良いところはこれらの学問を横断的に学ぶことができ、それぞれの知識を広く得られると同時に、その実践方法についても学べることにあります。

僕はこの大学で色々なことを学んだのですが、特に、コンピュータのプログラミングや、コンピュータを使ったデザインやアートなどに興味を持ち、色々なコンテストに参加したり、コンペに参加して賞をもらったりすることができました。また、卒業研究では人型ロボットのシステム開発と、その心理学的な評価実験を行いました。大学時代には国の機関に研究の提案を行い、個人で研究予算を獲得して研究をしたりもしました。このように、興味のあることに対してその専門家(教授陣)のアドバイスを他の大学よりも比較的容易に貰えることが未来大の良いところだと思います。僕からすると後輩ですが、現役の皆さんからすると先輩達のがんばりで未来大学の中での潮陵生の評判はとても良いです。

## 大学院時代

大学院に進学する頃には、僕は研究者になると決心していました。もしかしたらそれは就職活動をするのが嫌だっただけかもしれませんが。修士課程(未来大では博士前期課程と呼んでいました)では、学部時代同様に色々なことをやっていました。2005年には愛知万博でロボットによるミュージカルの展示とかもしていました。修士論文では、卒業論文と同様に人と人型ロボットの対話技術と、その社会心理学的な影響を調査する研究を行いました。

博士課程(博士後期課程)に進学すると同時に僕は京都にある(株)国際電気通信基礎技術研究所の知能ロボティクス研究所というところにインターン(研修生)として行くことになりました。博士課程の二年間、京都というか、ほとんど奈良県という全くの田舎で過ごすことになりました(補足:博士課程の期間は、本当は最低三年間なのですが、修了要件を満たすことができれば期間を短縮できるというルールを適用したのです)。この研究所は脳科学や人型ロボットの研究で世界的に有名な研究所で、僕はここで人型ロボットの操作方法や、彼らを実際の駅やショッピングセンターに持って行って一般の人々の反応を調査するような研究をしていました。また、テレビ等で見たことがあるかもしれませんが、人にそっくりなアンドロイドロボットの研究もしていました。この研究が僕の博士論文となり、今までの仕事で一番有名なものだと思います。

博士課程の修了が間近になって、僕は進路に迷っていました。このとき、有り難いことに、色々な大学から

お誘いを頂いたり、企業からもお誘いを頂いたりしていました。研究者と一言でいっても企業の研究者もいれば大学の研究者もいます。もっと細かいことを言うと、大学の研究者の中でもポスドク(博士取得後に教職を得るまでの間に任期付きで研究をする人)と助教(大体の場合は任期付)でも違いますし、一生そこで働くことができる権利(テニユアとかパーマネントとか呼ばれます)をもらえるかどうかでも大きく待遇が異なります。僕はどうしたいのだろうか、この頃すごく良く考えていました。そのまま京都の研究所に残り、企業の研究者になるという可能性もありました。企業の研究者にも色々な種類があるのですが、この場合、大学に行くよりも研究に専念できるというメリットがあります。大雑把にまとめると、本当に数多くの選択肢があった訳です。

## 大学院修了後

結局、僕は東京に行くことにしていました。

どうしてかという、一言では言いにくいのですが、一旦気持ちを変えたかったということ、タイミング良く自分の研究テーマに合う研究プロジェクトが東京で始まるということがありました。このプロジェクトが東京大学の先生(いまの僕の上司)を主体として進められるということ、僕がそのとき日本学術振興会の特別研究員という(ざっくり言うと)国の研究員として採用されていたこともあり、この研究を行うために東京大学に行くことにしたのです。この時の僕の立場は、ある意味では自由ですが、健康保険も年金も自分で払う必要があり、かつ二年間だけという任期付だったため、とても不安定な立場でした。選択肢の中でも一番待遇が悪いものだったかもしれませんが(笑)でも、魅力的な研究テーマに取り組むことができることもあり、これを選びました。

東京大学に来てからは未来の一般家庭を想定した、家庭用ロボットや情報家電のためのユーザインタフェースに関する研究を行っています。例えば、近い将来家庭用ロボットが私たちの生活を支援してくれることが期待されていますが、一方で、どのようにして彼らに指示をするのかについては様々な方法があります。これについて、一つ一つ例題を設定し、適切なユーザインタフェースを研究し開発したりしています。また、未来の家庭では色々なものが情報化されていると考えられますが、これらの電化製品は今まで以上に複雑な操作が必要になることは容易に想像できます。このため、簡単に私たちの意図を行動な情報家電に伝えることができる「リモコン」について研究したりもしています。ここに来てからの研究についても何度もテレビ等

で取り上げられたりしているの、見たことがある人もいるかもしれません。

## 2 僕の今までの経験から、いまの潮陵生に伝えたいこと

これまでに書いてきた中で、僕は大きな選択を三回しています。高校から大学への進学、大学から大学院への進学、そして大学院で博士を取得してから就職するときです。それぞれに色々な選択肢がありました。浪人してでも北大を目指したり、大学院に進学せずに就職したり、博士を取ったあとも他の場所に行くことも可能だったと思います。

人生の選択肢に正解も不正解もないとは思いますが、最終的には自分が選択したことを「正しかった」と思えるように努力することが大事だと思います。「自分の選択は正しいんだ。」と思込むのではなく、何年もあとに「あのときの選択は正しかった。」と思えるように、いま頑張ること、努力することが大切だと思います。

現役の3年生の中にはいま大学入試の結果待ちの人も、1,2年生だと大学入試を控えている人も多いことでしょう。本当は沢山伝えたいことがあるのですが、今回は僕の経験にもとづいて一つだけ書かせてもらいます。

### 「失敗」について

これまでに書いてきた中で、僕の人生で一番大きな出来事は大学受験に失敗したことです。僕にとって大学受験は失敗でした。未来大はただの滑り止めだったし、行くつもりは全くありませんでした。親も行かないで欲しいと思っていたようです。でも、もし僕が未来大に行ってもなお、その失敗を引きずっていたら、今の僕がいないのは自明です。ここで言いたいことは「失敗をしたあと何をするか。」ということです。失敗は必ずするものであって、誰にでもそれはやってきます。そのあと、何をするか。今回の例では、滑り止めの大学に入学後、その大学で純粋に大学の勉強を楽しみ、寝ても覚めても技術を付けるために勉強し、一つ一つ成果を増やしていったことが重要だったのだと思います(あまり自分のことを話すのは得意ではないのですが、高校時代は文系で、その後誰も知らない開学したばかりの大学に入学してから、今の自分の仕事を得るためにやったことを想像してもらえると、それなりに頑張ったことはわかってもらえるかと思います)。そこで現実から目を背けてしまっただけは駄目だったでしょう。今となっては親も「未来大に行かせて良かった。」と言ってくれるまでになりました。ある瞬間には失敗だと思ふことであっても、それが実は正解だったということは、

往々にしてあるのだらうと思います。また、自分の意志、努力によって状況は変えられるのだと思います。

この例から言いたいもう一つのことは、「どこで何をするのか」が重要ではなく、「自分が何をするのか」が重要だということです。有名な大学に入っても、そのあと遊んでばかりいれば未来は明るいとは思えません。反対に、名前も知らない大学であっても、純粋にがんばれば多くの人から注目されるようになることはできるということです。個人的には有名大学で一生懸命勉強することほど有益なことはないと思いますし、現役の人には是非とも大きくて有名な大学に進学して欲しいと思っています。それは僕にはできなかつたことだからです。そして、今僕と一緒に研究をしている学生達を見ていて、本当に羨ましいと思うことが多いからです。

もう一つだけ、伝えたいことがあります。「失敗を恐れない。」と良く言いますが、僕はそれよりも「失敗して当たり前。」「むしろ、失敗した先を常に考えておく。」ことが重要だと思っています。

僕の個人的な体験ですが、色々なことに挑戦しては失敗し、そのたびに落ち込んだりしていた時期がありました。このころの自分は「正解」ばかりを探し求めていたように思います。短期的な正しさとか、目に見える成果と言うべきでしょうか。いずれにせよ、すごく焦っていたのだと思います。でも、あるとき「失敗することが当然であり、むしろそれを前提に行動したら良いのではないだろうか。」と思ったのですが、この時から僕は大きく変わったように思います。失敗を先読みすることを考えるようになりました。どうすればこれが失敗するだろうか、ではそうしないために、どうしたら良いだろうか。そう考え始めると、色々な物事がうまく動き始めるようになりました。同時に、結果として失敗しても、それを「なぜ失敗したのか」良く考えるようになり、それを経験として蓄積できるようになっていました。

この視点で物事を考えると、色々な人の人生や、歴史というものがとても重要に見えてきます。特に、色々な人の失敗談や、歴史上の失敗についてです。多くの方は成功体験を語りたがるのですが、一方で、他人の成功体験なんてものは偶然の組み合わせであり、自分には適用できないことばかりです。それよりも、失敗経験のほうが誰にでも起こりえるものであり、重要だと思います。他人の失敗を自分の体験のように感じ、それをしないために良く考える。それが重要だと思います。

「経験とは、成功体験の積み重ねではなく、失敗体験の積み重ねである。」「専門家とは、その分野においてほぼすべての失敗を経験した人のことである。」と

は良く言われますが、自分の失敗だけではなく、他人の失敗から学べる人のほうが、良い仕事ができる人になれるように思います。僕はまだまだそういう人になっていないのですが。。

### 3 おわりに

そして僕は今年 2017 年 3 月に北海道大学大学院情報科学研究科に准教授として着任し、現在は北海道大学で教育研究に携わっています。人生とは本当に不思議なもので、結局北大に来ることになりました。本当に有り難いことだと思います。今回の選択は全く失敗ではありませんが、しかし人生における一つの大きな選択でした。いまはこれを新しい「正しい選択」としていきよう、頑張っているところです。

前の原稿からもう一つだけ付け加えることがあるとすれば、人生は 18 歳の選択だけでは決まらないということです。これから遠くの大学に進学する人、小樽に残って進学する人、浪人する人、就職する人、高校生のみなさんにも既に沢山の選択肢があると思います。それは一つの大きな選択ですが、しかし長い人生のなかの一つの選択でしかありません。常に新しい事を学び続けることを忘れなければ、さらに幅広い、数多くの選択肢を得ることができると思います。その新しく得た選択肢の中から、「人生を拓く鍵」となるようなものが次々に現れてきます。でも、準備が出来ていなければなかなかそれをつかみ取ることは難しいし、それをつかんで失敗することもあるでしょう。ただし、失敗することで得る新しい選択肢もあります。その失敗が成功への鍵となることも沢山あります。その失敗が成功への鍵となるまで数年かかることもあります。本当に人生は

難しく面白い。ここでの「人生を拓く鍵となる選択肢」は「チャンス」と言い換えることもできます。失敗が成功へのチャンスとなり得るということです。いま高校生のみなさん、目の前にチャンスが来たときに確実に手にすることができる人になってください。長期的な視点を持って失敗を恐れず、しかし慎重にしたたかにチャンスをつかんでください。そのための準備を怠らない人になってください。

最後に、現代は情報科学技術が非常に重要になってきており、その重要性は日々増加してきているように感じます。みなさんが生きていく世界では、一日として情報科学技術に触れない日は存在しないことでしょう。この原稿を読んでもくれた人の中で、情報科学技術を志す人が一人でも増えれば嬉しいです。いつか、世界のどこかで、みなさんの中の誰かとお会いできることを楽しみにしています。

あと、前回の原稿の中で未来大のことを「名前も知らない大学」と言ってしまうましたが、その当時からも情報系の大学として十分に有名になっていたと思いますので、お詫びして訂正します。



### 寄稿「海外での特殊な体験記」

谷口 勲 51 期

私は、小学校 2 年生のとき、札幌から小樽に移り住み、小学校／中学校のときは小樽運河沿いに、そして小樽潮陵高校／小樽商大のときは、潮見台ジャンツエのすぐそばに住み、いつも、小樽港に入港する外国船をみて育ちました。そして、小樽商大に在学中には、ESS(英会話部)に所属し、船舶機械修理工場の依頼で小樽港に入港する外国船の機械室での通訳を務めました。

就職先を最終決定したのは、大学 4 年になってからのことでしたが、大好きな英語を活用できる仕事で、世界を舞台に活躍し、日本経済の発展にも資する業種は何かと考えた場合、総合商社にいきました。

そして、希望どおり総合商社の東京支社に入社し、運輸部輸出課(輸出する際の船積書類の作成、および船積後の銀行買取書類の作成を行う部署)に配属され、その後、鉄鋼貿易部、鉄鋼開発部、海外建設部、日中合弁会社(総経理)および国際部など一貫して貿易関係の仕事に従事し、国際部のときには、日米財界人会議での日商岩井事務局代表や日本企業代表を務めた他、経団連や経済同友会、商工会議所などが主催する国際会議の日商岩井事務局代表として参加いたしました(潮陵高校時代の級友であった藤原勝博君が当時、経団連の常務理事で、経団連主催の国際会議の議長を務めていました)。また、

当時、日本に外貨がたまり過ぎたため、これを減らすため、日本貿易振興会(ジェトロ)から委嘱され、ブラジルおよびチリーに1年間長期出張し、両国政府に対日輸出の具体策をアドバイスしたり、両国の各地で講演会を行ったりした経験もあります。商社マンとして、ブラジルに7年、イランに2年、そして日中合弁会社の総経理(社長)として中国に3年、またジェトロ嘱託としてブラジルに6ヶ月、チリーに6ヶ月滞在し、出張先は合計37カ国を数えました。

商社マンを55歳で早期退職し、生れ故郷の北海道に戻り総合住宅メーカーの購買会社社長を2年務めた後、東京に戻り、72歳までの15年間、英語/ポルトガル語/スペイン語の実務翻訳家として充実した生活を送らせていただきました。現在、79歳になりますが、趣味として8ヶ国語の習得に精を出しております。

20代のときに、フィリピン賠償や韓国の請求権の商談を受注したほか、韓国のソウル市内のハイウェイ建設や漢江にかかる鉄橋建設などにも従事し、『漢江の奇跡』にも一役買いました。また、台湾の高雄港/基隆港/台中港/花蓮港の各港湾局向けに鋼矢板(シートパイル)を納入したり、台湾で初めての鉄骨造のホテルを建設したり、東南アジア各地に短期・長期出張を繰り返しました。

32歳のときにブラジル駐在員となりブラジルのサンパウロ店に7年間勤務した後、イランのテヘラン店に、1980年に赴任しましたが、同年9月末に**イランとイラクが全面戦争**に突入したため、命がけでイランを脱出することになりました。テヘラン駐在を終えた後、中国の北京に日中合弁会社(外人用マンションの建設および維持管理)を立上げ、この合弁会社の総経理を3年間務めました。このときには、**天安門事件**に遭遇しています。

さて、ここで、私が商社マン時代に体験したもののなかで、通常のサラリーマンでは経験できない『**海外での特殊な体験**』の中から、**イラン**に駐在したときに触れてみたいと思います。

イランには、1980年(昭和55年)6月24日に赴任いたしました。その2週間後にイランとイラクの小競り合いが始まり、同年9月末には、両国が全面戦争に突入、テヘラン上空までイラク機が頻繁に飛来する事態となり、イラン脱出を決意せざるを得なくなりました(イラン・イラク戦争:1980年9月22日~1988年8月20日)。私を含む当社の脱出組第1陣は、1980年10月15日にチャーターしたバス2台でテヘランを出発、

トルコ/イランの国境の町「バザルガン」を抜け、トルコのアンカラ/イスタンブール、英国のロンドン経由で東京に1週間後の10月22日に無事到着しました。そして、戦争が一段落した段階で、再度テヘランに戻り、仕事の引継ぎを済ませ帰国いたしました。

通常、外国では、自国民が外国で戦争やクーデター、災害等に巻き込まれると政府救援機で自国民を救出するわけですが、日本は『55年体制論争』(社会党の「自衛隊を海外に出すのは、侵略戦争につながる」という主張によって、海外在留邦人救出のための手段が必要だという声も、押しつぶされていた状況を指している)が続いており、当時、日本は、救援機や政府専用機も保有していませんでした。また、戦争状態にある国には、民間の救援機はもとより、日本政府の救援機も救出にきてくれません。イランの日本大使館より『現在の憲法下では、日本政府が救援機を出すことは出来ない。各社は、それぞれの自社責任で脱出ルートを決し、イランを脱出してほしい』との説明がありました。日本大使館の避難勧告にしたがって、当社は、バスをチャーターし、第1陣はトルコ経由、第2陣はカスピ海からロシア経由でイランを脱出いたしました。しかしながら、最終的に、在留邦人約200名がイラン国内に取り残されました。日本政府に代わって、この取り残された在留邦人全員を救出してくれたのはトルコ政府で、同政府がトルコ航空の特別機を手配してくれたのです(この特別機は、トルコ政府と親密な関係にあった伊藤忠が当時のトルコのオザール首相に頼み込んで手配してもらったものです)。脱出時の模様については、過去にNHKの「プロジェクトX」という番組で一部分が簡単に放映されました。

このイラン・イラク戦争の背景には、1978年にシーア派の革命「イラン革命」が起こり、パーレビ国王の時代から、ホメイニによるイスラム原理主義の時代へと変貌したことがあり、イラク国内のシーア派の動向を懸念したイラクのバアス党が一方向的にイランを空爆して戦争が始まったものです(アメリカや周辺アラブ諸国はイラクを支援しました)。

### 【イラン脱出までの4ヶ月間の駐在員生活の様子】

当時のイランは米国や西欧諸国、日本が経済制裁を実施していたため、様々な物資が不足していました。食料不足は勿論で、日本から持ち込んだお米で寿司を作って食べるのが最高の贅沢でした。現地の贅沢なご馳走といえば、焼き鳥とチェロカバブ(外米に

バターを混ぜ、卵黄をまぶし、その上に羊の肉を載せて食べるもの)と酸っぱい水ヨーグルトです。昼食は日本本社よりの差し入れの「カップヌードル」と決まっていた。そして、日本にいる留守家族に毎日欠かさず、『今日も無事元気でやっているの心配しないように』との電話をかけるよう、会社より義務付けられていました。

イランの夏は肌が焼けるほど暑く、自動車のボンネットが目玉焼きができるぐらいです。逆に冬は雪が降り、凍るような寒さになります。

また、この戦争のために、第二次世界大戦時に経験した『灯火管制』を再度経験するはめになりました。夜になると真暗闇で、月明かりはむろんのこと星明りもありません。したがって、真暗闇で一寸先が見えない道路を横切るのは命がけです。自動車が無灯火でしかも全速力で突っ走ってくる状態の中で道路を横切ります。道路を渡るときは、一人では怖くて渡れないので、数人で聞き耳を立て(見ようにも真暗闇で何も見えないのです)、音がするかどうかを確認し、恐る恐る渡ったものでした。命がけです。また、テヘラン市では歩道の真ん中にコンクリート製の電柱が立っています。そしてこの真暗闇ときています。この電柱に頭をぶつけて、オデコを切る者もいます。こぶができたのではなく、切ったというのは、電柱が丸ではなく、四角いためです。さらに恐怖が待っています。歩道の真ん中にマンホールがあり、その蓋が開いている場合が多いのです。このマンホールに落ちて死体が上がってこないという記事もときどき地元紙に載っていました。テヘランの街は山の方から斜面になっておりこのマンホールに飲み込まれたが最後、どこに流されるのかまったく見当もつかないのです。さて、この恐怖を乗り越えホテルにたどり着きました。灯火管制のためエレベーターは動いていないので、真暗闇の中で階段を上り、自分の部屋まで手探りで行くわけですが、階段を何段上がり、そこを左に曲がって何歩歩けば自分の部屋にたどり着くかを明るいうちに検分し覚えておかなければ、廊下で一夜を過ごす羽目になります。部屋に入ると楽しみが待っています。冷蔵庫に入れた細長いラクビーボール型のスイカが食べられるのです。手探りで浴室まで行き、ドアを閉め切って外に明かりがもれないようにした後、電気をつけます。浴室に本を持ち込んで浴槽の湯につかり、スイカを食べながら本を読みます。酸欠で息が苦しくなりました。電気を消してドアを開き空気を入れて、またドアを閉めて電気をつけ、また本を読みます。外はイラク側と思われる飛行機の爆音、そして空襲警報と対

空砲火(われわれは花火大会と呼んでいました)が続いています。

そろそろ眠気を催してきました。次は、大きなバスタオルを水につけてこのタオルを絞らずにそのままの状態です。寝台の周りの床に三枚ほど置いて寝ます。これを忘れると喉が「からから」になるだけではなく肌も「かさかさ」になります。

いよいよ戦火が激しくなり、テヘラン事務所の2階の執務室から見下ろせる向かい側の緊急病院ではイランの負傷兵が毎日運び込まれ、この負傷兵が死亡するたびに家族が悲痛な大声をあげて泣き叫ぶ声が嫌でも耳に入ってきます。

以上のような生活を送りながらも、商売の方は、戦争中にもかかわらず、三国間貿易を中心として、過去最高の多額の実績を残し、社長表彰を受けました。人には言えないほどの危険も顧みず、鉄鋼公団(Metal Procurement and Distribution Center)総裁と毎日のように面談し(同公団のエレベーターが灯火管制で、突然止まり、エレベーターの中に閉じ込められ、やっとの思いで、エレベーターの天井と上層階の隙間から脱出したこともありましたが)、情報交換を行って、同公団総裁より絶大な信頼を勝ち取っていたことが、このような実績に繋がったものです。このことは、今でも誇らしく、大いに自己満足しています。

## 【大使館より避難勧告が出され、いよいよイラン脱出】

私はトルコ経由の第1陣のメンバーとして、チャーターしたバス2台でトルコとの国境の町「バザルガン」からトルコに入りました。現地スタッフ数名が自主的にバザルガンまで同乗を申し出てくれました。そしてラジオで情報を得ながらバザルガンへと急いだわけですが、なにしろ灯火管制が敷かれている中なので、バスのライトを常時照らして走るわけにもいかず、ライトを数秒照らして運転手の勘まかせで暗闇の中を突っ走る状態でした。

バザルガンの町も近くなったときです、ラジオを聴いていた現地スタッフが”Bazargan has already been under the control of Iraq.”(「バザルガンはすでにイラクの管理下に入った」と叫びました。半信半疑で、恐る恐るバザルガンに向けゆっくりとバスを走らせていたその時です。笛の音とともにバスが停車を命じられ兵隊がどやどやとバスの中に入り込んで銃口を我々の胸に突きつけました。『もうこれまでだ』と思ったその瞬間、耳にしたのは聞きなれたペルシャ語でした。ほっと胸をなでおろしました。イラン人なのです。そう



です、『バザルガンはイラクに占領された』というラジオ放送はイラク側のかく乱情報だったのです。バザルガンに行く途中のバスの窓からは赤茶けた道路をひた走る数台の戦車が見られました。我々のバスに発砲してこなかったことから、これらの戦車はイラン軍のものだったと思われます。

バスでの脱出で一番困ったことは、当社駐在員の中に、婦人同伴者が 1 名おり、このご婦人への処理でした。男性はバスを止めて小便小僧きどりで処理すればよいのですが、ご婦人の方はそういう訳にもいかず、数人が毛布(脱出時は 10 月中旬ですすでに相当寒くなっていました)の上の端を持って婦人を囲み処理してもらいました。もちろん、バザルガンに到着するまでにいくつかの町を経由したときに、用を足すわけですが各国の脱出者が大勢いるので、トイレはいつも満員で、ここで用を足すこともなかなか難しいのです。

さて、バザルガンに到着しました。少しでも早くイランからトルコに脱出しようとする各国の人たちの集団でごったがえしています。トルコとイランの国境にある税関の建物はガラス張りとなっていて、窓の向こうに見えるトルコ側では、西洋音楽はもとよりアルコールが一切ご法度になっているイランとは異なり、西洋音楽を聴き、ビールを飲んでいるではありませんか。一方、こちらのイラン側では身動きもできないほど混雑を極め息苦しい感じです。検問では数人を取り調べては、いったん開いた門を閉じるといった具合で、一体いつになったら自分たちの順番が回ってくるのか見当もつかないほど、ゆっくりと通関処理をしています。そしてあと数名でやっと我々の番になるというときに、本日の業務はここまでと一方向的にトルコ側が門を閉ざしてしまっただけです。その直後のことです。当時 60 歳代の関連会社の人間が急に気分が悪くなり、卒倒してしまったのです。トルコ側の税官吏と掛け合い、時間外ではあるが、特別に病人をトルコ側に入れてもらうことで話がつきました。我々はこの機会をとらえ、病人を囲むようにして無事全員がトルコ側に脱出することができました。ここで驚いたことに、我々のグループにまぎれ込んでいたイラン人の若い女性数名が駆け出ししていくではありませんか。何かと見れば、ビールに向かって猛烈にダッシュしているのです。よほどビールが飲みたかったのでしょうか。イランでは、パーレビ国王の時代には、西洋音楽はもとよりアルコールも自由に飲酒することができましたが、ホメイニ政権下では、西欧音楽も禁止、アルコールも厳禁で、

代わりにノン・アルコールのホメイニー・ビールと称するビールが出回っていました。

## 【追記】

イランとトルコの国境は山賊が出没することでも有名ですが、当社の数台後を走っていた、東亜建設のチャーターしたバスが、山賊に襲われ、同社の社員 2 名が銃弾で足を撃ち抜かれています。

当社の脱出の第 1 陣は、この後、トルコのアンカラからイスタンブール経由でロンドン、そして、やっとの思いで、ロンドンから日本に到着しました。

さて、最後になりましたが、小樽潮陵高校の在校生へのメッセージとして、下記のことを述べたいと思います。

私がイランを脱出し、日本に一時帰国したときに、旺文社主催の「読者希望職種研究座談会」に日商岩井を代表して参加したことがあり、三井物産、三菱商事、伊藤忠商事、ニチメン、トーメンの代表者の方々に混じって、一橋大学、愛知大学、関西学院大学、東海大学などの皆さん方に「商社マンとは」について語ったことがありますが、その時に語ったことは今でも変わっておりません。

すなわち、

- ① 自分が好きで一生続けられると思う仕事を選択すること。
- ② 情報化時代なので、日本だけのことを考えるのではなく、世界情勢を勘案し、『世界の中の日本』という捉え方を常にすること。特に、商社マンを目指す人は、英語の習得はもとより、できるだけ生の情報を入手するため、英語以外の外国語の習得にも励むこと。
- ③ 社交性や積極性、説得力、分析力、そして、アメーバのように触覚を強くし、柔軟な思考力の保持を常日頃、磨いておくこと。
- ④ 仕事をする場合、バックにある会社の力が 70%、個人の能力が 30%と思われるが、ある仕事を創造していくために、自分で積極的に情報の収集・分析を行い、粘り強く上司を説得すること。
- ⑤ 夢(目標)をもって、それを最後まで遂行すること。

以上です。



日商岩井鉄鋼貿易部 OB 会で  
女性 OB たちと  
(向かって右から 2 人目が本人)



メールフォーラムの主要メンバー  
(三井物産／丸紅／日商岩井 OB、  
日本翻訳連盟元事務局長など)たちと  
(向かって一番左が本人)



メールフォーラムの世話人(日本翻訳連盟元  
事務局長、三井物産 OB)との会食  
(向かって左から 2 人目が本人)

## 創立 60 周年事業「アンケート調査報告」

OB・OG の経験を在校生に伝え、楽しい人生と職業を目指してもらおう！

### ■お名前

岩間世界 (95期・34歳・男)

### ■経歴

潮陵卒業後、2浪

近畿大学理工学部理学科化学コース卒業

京都大学大学院人間・環境学研究科修士、博士課程  
修了

京都大学大学院人間・環境学研究科研究員、明治学  
院大学法学部化学教室助手を経て、現在熊本学園大  
学商学部商学科専任講師

### ■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

主要な専攻は化学です。ただ、それ以外に歴史や政治、  
法律、など社会科学系について、機会があれば履修し  
ていました。

### ■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

化学系を卒業して、法学部、商学部の教員になったた  
め、周りの先生の話にも多少はついていけるので、非常  
に役立ったと思っています。

### ■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

基本的には「大学」という業界の中で職を移っていま  
す。

### ■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

大学で教育と研究をしています。授業もしますし、自分  
の研究室で実験もします。

### ■問5. その職業の楽しさは何ですか？

好きなときに好きなことが出来る事です。タイムカードな  
ど一切ありません。全て自分の裁量で決められます。そ  
して、良くも悪くもその責任は全て自分で取ることが出  
来る事です。

### ■問6. その職業のつらさは何ですか？

研究成果が出なかったときや、授業をしていて学生の  
反応がイマイチのときがつらいです。

### ■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

うまくいかないことの方が多いです。実験がうまくいかず、  
1年ほど何も成果が出ないときもありました。

### ■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

くよくよしない事です。明日があるさと、良い意味で前向  
きになれることです。

### ■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

NPOの経営や会計です。

### ■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

昨年自分が理事長として、実験教室などをするNPOを  
設立しました。各種手続きなど、毎日が勉強です。

### ■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

昨年設立したNPOをとりあえず10年続ける事。

### ■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に 立った事がありましたか？

今でも付き合っている友達が世界中にいることです。つ  
い先週も2年上級の先輩と名古屋で会っていました。ど  
こに行っても、潮陵という同じ場にいた仲間がいることは  
本当に心強いです。

### ■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立 った事がありましたか？

どんどん寂れていくというのを自分の目で見られたこと  
です。卒業後に、まだ成長する都会に出たので、その  
対比など自分なりの考え方を持てるようになりました。

### ■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

とにかく友達を作ってください。また先輩後輩の縦のつながりも大切にしてください。部活にも積極的に関わってください。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

今ある既存の職業は、残念ながらこれから10年で多くがなくなります。そのときに、これなら俺は誰にも負けないというものを作ることが大切です。「付度」が悪く言われていますが、相手の立場に立って、相手がどうしてほしいか先回りして「付度」できれば、どんな世の中になっても職を失うことはないと思います。そのためには、多くの友人と語り合ってください。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

何か失敗したって死ぬわけじゃありません。「～してみる？」といわれたら、チャンスだと思って積極的に前に突き進んでください。きっと得られる物があるはずですよ。

■お名前

小葉松 知行 (90期・39歳・男)

■経歴

1996年4月小樽商科大学入学、2000年3月卒業。

2000年4月富士通株式会社入社、現在に至る。

2007年4月グロービス経営大学院入学、2010年3月卒業。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

大学で学んだことよりも、サークル活動で経験した企業訪問、インターシップ、渉外活動が役に立ちました。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

はい。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

① 2000年6月～2007年12月 法人営業

② 2008年1月～2009年12月 事業企画

③ 2010年1月～ 新規事業担当

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

① 携帯電話通信網を支えるインフラビジネスの推進

② 構造改革、新会社設立

③ ICTを活用した新規事業開拓(一次産業、地方創生、新領域)

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

① 社会全体のコミュニケーションが変わっていく様子を目の当たりにできること。新しい価値を仕掛けられること。

② 楽しいというより、必死でした。

③ 一次産業や地域社会といった、自分の世界を広げられる喜び。先人がいない屯田兵のようなやりがい、気概。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

① 激しい競争、だまされまされ合い

② 期限はあるが、正解のない仕事

③ ゴールのわからない、マラソンのようなストレス

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

たくさんあります。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

同じ過ちをくり返さないこと。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

2007～2010 MBA

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

経営とは何か、を学ぶため。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

家族のため、健康と仕事の両立、健康寿命を夫婦で維持すること。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

あまりありません。麻雀を教わったくらい。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

あまりありません。商大時代は札幌通生でした。

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

世界を広げること、多くの人と縁を持つこと、自分の中に一本の柱(専門性)を持つことが肝要です。価値観は2つ以上持ち、見知ること、第3の軸を自分の中に持つことができます。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

新領域、グローバルビジネス。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

潮陵は自由です。自由が故に、3年間を無為に過ごしてしまいがちですが、同じ時間を必死で過ごしている同世代が、全国、全世界にたくさんいます。周りの大人が教えられない世界は、自分で掴み取りに行きましょう。“自らに誠実に”生きて下さい。応援しています。

■お名前

尾上めぐみ(旧姓:織田) (79期・50歳・女)

## ■経歴

大学卒業後、東京にて、旅行会社に入社。  
入社した会社の業態が広告代理店に変わり、入社4年目に退職。  
オーストラリアに渡り、土産物販売店に就職。  
4年程オーストラリアに滞在後、東南アジアから中東をバックパック旅行した後、帰国。  
帰国後、ゲストハウス運営会社に10年間勤務。  
平成23年7月に、ITサポート会社に転職、現在に至る。

### ■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

大学では、文化人類学を専攻しておりました。  
また、英会話学校や、日本語教師の養成学校等に通っておりました。

### ■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

いろいろな国の人たちと交流を持ちたいと思っておりましたので、様々な国、地域の文化や伝統等を学ぶ、文化人類学は、学ぶ事が多かったです。  
また、英会話力を付ける事により、各国の人とコミュニケーションを取る事が出来るようになり、現在までの仕事に大変役立っております。

### ■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

- ・旅行会社、旅行商品販売
- ・総務、経理、人事、採用業務
- ・接客、営業業務
- ・サポート業務
- ・海外調達業務

### ■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

- ・旅行会社、旅行商品販売・・・海外旅行商品をお客様に提案、販売する業務。
- ・総務、経理、人事、採用業務・・・会社行事の運営や、入出金管理、採用書類選考、及び、面接業務
- ・接客、営業業務・・・ゲストハウスの部屋の紹介、案内等
- ・サポート業務・・・商品についての購入、使用についての問い合わせへの対応
- ・海外調達業務・・・海外販売元への在庫問い合わせ、及び、購入手続き等

### ■問5. その職業の楽しさは何ですか？

- ・旅行会社、旅行商品販売・・・お客様が、楽しみにしている旅行の実現するお手伝いが出来る事。
- ・総務、経理、人事、採用業務・・・会社がどのように運営されているのかを知る事。採用においては、多くの学生さんに会う事が出来たのはとても楽しかったです。

- ・接客、営業業務・・・いろいろなお客様との出会い、また、ニーズにお応えする業務は、大変勉強になり、また人の為になっているという事が実感出来る事。
- ・サポート業務・・・お客様がお困りの事について、解決のお手伝いが出来る事。
- ・海外調達業務・・・文化や商習慣の異なるいろいろな国の会社との取引は、難しい部分もあり、また、勉強になる事も多いです。

### ■問6. その職業のつらさは何ですか？

- ・旅行会社、旅行商品販売
  - ・接客、営業業務
  - ・サポート業務
  - ・海外調達業務
- 自分の思っていたように物事が進まず、あるいは、自分の未熟さから、お客様にご迷惑をお掛けしてしまう事。営業においては、数字の目標を追わなくてはならない事。
- ・総務、経理、人事、採用業務
- 経営サイドと、働く人の間に立ち、意見の調整を行わなくてはならない事。
- どんな仕事にも、つらさが付き物ですが、つらさを乗り越えるところに成長があると思います。

### ■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

お客様の希望の納期に商品がおさめられず、お叱りを受けました。

### ■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

お取引の条件については、事前に、きちんとお客様とコミュニケーションを取り、コンセンサスを得る必要がある事を学びました。また、どんな事情がある場合でも、お客様にご迷惑をお掛けした際には、誠意をもって、対応をする事が大切だという事を強く実感しました。

### ■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

日本の文化、歴史、伝統について。特に神道について。国際情勢等。

### ■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

50歳近くになり、日本人として生まれたにもかかわらず、あまりにも自分が日本について知らない事が多い事に気付きました。真の国際人となる為には、まず、自らの国について知る事が大切と思い、日本について勉強を続けています。

### ■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

二年前、通訳案内士の資格を取得いたしました。

これからも日本についての学びを深め、海外の方に、うるわしき日本についてお伝え出来るようになりたいと思っております。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

自由でおおらかな校風は、受験一点張りになりがちな高校生活に潤いを与えてくれたと思います。

良い師、良い友人たちと出会う事も出来ました。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

海、山、坂道、溢れる緑、降り積もる雪、、、自然に恵まれた小樽は、自然の美しさ、素晴らしさ、そして、厳しさを教えてくれました。

また、自然の変化や流れを受け入れる感受性、忍耐力を育ててくれたと思います。

虫捕り、海水浴、キャンプ、雪像作り、そり・スキー遊び等々、都会では体験出来ない様々な経験が出来、豊かな子供時代を過ごす事が出来たと思い、小樽での生活には、とても感謝しています。

■問14. 在校生に伝えたい事は何かですか？

そこにいる時には、なかなかわからない事かもしれませんが、小樽はとても素晴らしい街だと思います。

また、潮陵も、時代と共に変わっているところはあるかもしれませんが、創立当時からずっと変わらず流れ、受け継がれている自由な気風、豊かさのある学校であると思います。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

これからの時代、より一層、海外と関係のある仕事が増えて行くと思います。

また、AIの導入により、様々な業務が省力・省人化されて行くと言われていています。

その中で、求められる物は、データでは割り切れない、人(人間)にしか出来ない、サービスの提供であると思います。

いかなる職種においても、人の「心」を大切に、人々の生活を豊かにして行くような仕事が求められ、盛んになって行くと思います。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

潮陵生である事を誇りに思い、潮陵での生活を土台として、大きく羽ばたいて行ってください！！

■お名前

大町 宏志 (73期・57歳・男)

■経歴

高卒後は一年間弱予備校に通った後、七年間の大部分、今でいうニート(引きこもり)、宅浪で、旧都立大法学部に八年遅れで進学。鴻池運輸サントリー武蔵野営業所を二ヶ月契約形式三年弱、実質二年弱。キューピー(株)中河原工場で二ヶ月契約十五年半、途中半年契約六年。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

法学部政治学科で、ゼミは政治学、国際法、家族法。英語の資格試験の勉強。車の運転免許も、普通、中型自動二輪まで取得。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

あまり役に立っていない気がする。英語の勉強もすっかりやめてしまった。どちらもペーパーです。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

新卒で入社した自動車のブレーキの会社は一ヶ月半で入社取消。その後、日雇い、二ヶ月契約、半年契約などで、建設作業、運送業、製造業に従事。

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

パレット選別、ゴミ捨て(汚れポリ破碎)、食品工場での資材搬入作業、ドラム洗浄、コンテナ拭きなど、ハンドリフトでのパレット整理。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

多摩川のサイクリングロードで通勤サイクリング出来ることです。仕事の本体ではないが・・・船や飛行機のラジコンを見たことがある。台風一過後、多摩川の地形の変化が見てとれるところ・・・

■問6. その職業のつらさは何ですか？

改正労働契約法が有期五年で無期転換申込を可能にしたので、現在の二ヶ月契約更新繰り返しも、面接を二ヶ月毎受けてチェックされるようになった。ドラム洗浄作業を陸上競技場での五千米タイムトライアルみたく、1時間に18本の標準作業時間が設定されているところ(実際は13本又は14本位/H)。腰痛でコンテナ拭き。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

大学受験を中途半端に失敗(現役時、北大旧理工のみ受けて)。学部卒後の就職も父の定年に一年間に合わず失敗、非正規に転落したこと。

学部で出会った唯一同い年の女子に、結局交際を断られたこと。

現在も、仮転居中のため、今年中の本転居に向け、HL転落の危機にあること。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

高卒後の最初の4年間は、TV、新聞、読書で過ごした。夏目漱石の「草枕」で職業選択らしきものを学んだ。更

に、古典の読書として、古代ローマのモラリスト(セネカ、プルタルコス)の著作を読んだ。

父方の浜松の叔父が三回目の結婚をしないので、自分もいまだ一度も結婚していない。「尊敬すべきだが平凡人」とニーチェに言われたJ.S.ミルのように掠奪婚するつもりなどありません。それについては、清水書院 人と思想シリーズ「J.S.ミル」で問題提起されていますが・・・

百円ショップや環境コミュニケーションセンターを活用し、部屋の清掃のノウハウを身につけること。

#### ■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

労働法セミナーを受講したり、科学雑誌のモニターになったことがある。極地研のセミナー、極地科学館のサイエンスカフェで。世紀末にも、危険物取扱者を乙四まで、電気工事Ⅱ種を取得したことがあります。

#### ■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

労働法セミナーはもちろん非正規から抜け出せなかったからで、科学雑誌モニターの方は、六年前の震災が契機。学部三年('89年)次の国際法模擬裁判(ジュサップ)のテーマが「南極と環境」だったこと。ビール、食品工場で働いてたからですが・・・ どちらも限りなくペーパーに近いです。

#### ■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

'35年の宇都宮での皆既日食は是非観望してみたい。'09年の南西諸島のは行かれず、部分日食のみだったので。'12年の金環食は観望したが。

#### ■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

実家が一時期(自分が小学一、二年の頃)潮陵生の下宿屋もやっていたこともあり、十歳年上のお兄さんたちが遊んでくれたのが楽しい思い出で、潮小五、六年の頃は、潮陵旧校舎と体育館の間の空地(「すずらん」と呼んでいた)で、クラスメートと草ソフトボールで遊んだ。高校入学直後、某級友に図書館でニーチェを初めて知らされた。H・ヘッセも多少読みかじった。

#### ■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

二、三浪(?)の頃、小樽の天狗山スキー場コース脇で、父母と共に落葉きのこを一回切り、大量採集したことがあった。竹かごでなくビニール袋を使ったのが失敗だったが。小六の天狗山遠足のことを思い出して行ってみた。

#### ■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

在学中は地学部天文班で、見栄で入っていたが、'97年4月三十六歳の時、高尾山でHB(ヘール・ポップ)彗

星を観望した。高文連の発表も一度もしたことないが、平地ではわからなかったので、一か八かのかかけで、ヘッドランプをつけてランニング登山。山頂に天文好きの人が二、三人いて教えてもらい、オペラグラスで見せてもらった。ちりの尾とイオンの尾がV字型をなし、ぼーっとした彗星。これは野郎だから出来たことです。自分の可能性を信じること。勉強だけでなく、一隅ずつ部屋の中も片付けを。

#### ■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

教える仕事は精神労働で、肉体労働よりも高齢まで継続していけると思われる。南極観測隊に加わった人々は、教員、研究者でも肉体労働をするらしい。

#### ■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

母校の校訓は「質実剛健」かと思っていたら、正式の校訓がなく、それらしきのは「進取の心」とか。月一回は小樽の天満宮に参拝し、大学受験等頑張っ、またそのお祭りにも見物に行っ(毎年8月24日~26日)。Z会もよいが、記憶術講座にも注目してもらいたい。連想結合法とか、数字変換法、外連想法。南極とか北極の極地にも関心を持ってほしい。小中の教員でも南極観測隊に加わって南極授業を開いている。ただし、ブリザード遭難だけでなくクレパス転落には用心を。ラン系スポーツ(マラソン、トレラン、オリエンテーリング他)を多少かじっておいた方がよいかも。(OLについてはデカルトの「方法序説」にも触れなければならぬが、雪崩のこともあるので、さし控えます)

#### ■お名前

山下 眞毅(73期・56歳・男)

#### ■経歴

1984年3月:一橋大学 経済学部卒業(武隈眞一教授ゼミ/教授も潮陵高校OB)

1984年4月:三菱銀行入行(現 三菱東京UFJ銀行) 新橋支店:銀行業務の基礎を習得 為替資金部:東京・NY・シカゴにて外為ディーラー 資金証券部:国債取引チーフ・ディーラー 営業本部:日本を代表する大企業との取引担当 シンガポール支店:企画課長として現地当局と交渉 国際企画部:海外拠点のコンプライアンス管理体制を構築

国際コンプライアンス部:企画次長(初代)として金融庁対応の責任者

ホーチミン支店長:ベトナム拠点長として日系企業の進出支援

2014年6月:大気社へ出向(ビル工場空調設備と自動車塗装設備の設計施工・販売)

2016年4月:大気社 理事コンプライアンス部長 ~ 現在に至る

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか?

【浪人生活】

・大学へは現役合格に失敗、予備校の学生寮で一浪して合格した。

・この浪人時代の寮長夫妻や先輩とは、その後も生涯に渡るお付き合いを頂いている。

【学問】

・大学では、経済学部にて、マクロ経済、ミクロ経済等の理論経済学を学んだ。

・理論経済学には、数学と英語が役立った。  
高校時代から数学と英語が好きで得意科目としていた。大学進学に際しては、理系の数学科に進みたかったが、数学では飯が食えないと考え直し、色々調べて経済学部を選んだ。

【社会勉強】

・大学時代は、体育会野球部(準硬式)で青春を謳歌する一方、浪人時代にお世話になった予備校で高校浪人生に数学や受験指導をして生活費を稼いだ。

・家庭教師や夜勤の菓子パン製造など複数のアルバイトも経験した。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか?

結論からいえば、大いに役立ったと言える。  
理論経済学については、日本は勿論のこと世界経済を理解し今後を見通す上で欠かせない基礎理論である。経済は日本単独で動くことはなく、世界的な視野で見なければ判断を誤る。銀行ディーラー時代は日々の業務をこなすために経済学の専門書を何冊も読むことになった。また、企業取引の担当として業界動向や、企業経営の観点からも必須の知識である。私は今なお海外情報に目を通すことを日課としており、このままライフワークになると思っている。

英語も大いに役立っている。今や、ビジネスは国境を超えてグローバル展開されており、世界の共通言語たる英語が出来ないと、日本の将来が危ぶまれる。私も、海外では通訳なしでお客様や現地社員と直接コミュニケーションを取るようになっている。英語は下手で十分。文法も正確である必要はない。要するに、人間同士で意志を通じ合えるかどうかだ。英語は、海外へ出て行って、「習うより慣れろ！」に尽きる。心配ご無用!

アルバイト等の社会経験も大いに役立っている。職業で優秀な人材とは、知識があるだけではダメ。相手としっかりコミュニケーションを取れること、お互いに信頼関係を構築できるかどうかで決まると思って間違いない。この点、私は素晴らしい方々に巡り合え、ご指導頂けたことは幸せなことだと深く感謝している。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか?

1. 銀行
2. 建設エンジニアリング業(空調・塗装設備)

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか?

1. 銀行  
預金、貸出、輸出輸入事務、外国為替、ディーリング(通貨・金利)、国債取引、企業取引、海外での計数管理、労務管理などの拠点管理、現地当局との交渉、海外支店長、海外のコンプライアンス管理(法令順守/海外約100拠点)、金融庁の担当、など
2. 建設エンジニアリング業(空調・塗装設備)  
会社全体(日本・海外19拠点)のコンプライアンス管理(法令順守)

■問5. その職業の楽しさは何ですか?

ズバリ、達成感!

夜も悪夢に魘されながら苦労してやったことが実現でき、認められた時の達成感は何物にも代え難い喜びである。

■問6. その職業のつらさは何ですか?

・常に新しいことにチャレンジしなければならず、自分でアイデアを出して突進しなければならないこと。

法令変更、経済ショック、顧客ニーズなど

・一般の方々からは業務内容が分かり難く、なかなか共感して貰えない事(泣)。

外為ディーリング?、企画業務?、コンプライアンス???(笑)

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか?

数えればキリがありません(笑)

・仕事を間違えてお客様や上司から叱られた

・相場動向を読み違えて大損を出した(ディーリング)

自分の失敗ではないが、

・銀行対応が不十分で、米国や日本の金融当局から叱られた(業務改善命令)

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか?

ずばり、PDCAです!

P(Plan)、D(Do)、C(Check)、A(Action)

日本語に言い換えれば、

P(計画)、D(実行)、C(見直し)、A(再実行)

まずは、なぜ失敗したのかを勇気を以て直視し、原因を分析し、再発防止のための計画を立てる(P)、次に、策定した計画を実行する(D)、実行してみて不具合があれば計画を修正する(C)、そして、修正した計画を再実行する、このPDCAを永遠に繰り返す。

PDCAサイクルと言われるこの一連の行動をしっかりやれば、確実に再発を防止できる。

これは、何も仕事だけのことでなく、自分の性格を改善したい、日常生活を改善したいなど、人生の全てに当てはめることができます。

我々は人間なので必ずミスします。大切なことは、同じミスを繰り返さない事。

逆の見方をすれば、ミスをするからこそ改善できる、とも言えます。

そして、ミスという現実に対し正面から向き合うためには、謙虚になって傾聴することも大切です。俺は悪くない、環境が悪いんだ、などと思っている限り、PDCAサイクルは回らず、したがって、改善できないということになります。

#### ■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

現在も、今後も死ぬまで勉強あるのみと思っています。PDCAサイクルは常に頭にあります。今や座右の銘です。

世界経済を見る、という作業も続いています。毎日、Facebookで海外メディア情報をチェックしていますし、関連本も毎日読んでいます。たまに小説にも目を通しますが。

#### ■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

理由？ それは、明日は今日よりも必ず良いはず、良くなければならない、と思っているからです。ベトナムに勤務している時、ベトナム人がとても明るい性格なのをみて、なぜだろう、と思っていると、ベトナム人の部下から教えて貰いました。素晴らしいことだと思いませんか！私は、だから、昨日や今日がどうしてだめだったのかをまずは理解する必要があると考え、毎日、色々な情報を入手して自分なりに分析するようにしています。これもPDCAサイクルに繋がりますね。

#### ■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

まずは今の会社で勤め上げ、その後は、これまで培ってきた専門性を活かした人生を送れば良いと考えています。漠然とですが。

#### ■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

潮陵高校は、人生の大きな節目だったと思いますし、その大切な一時期に素晴らしい先生や友人と知り合えた

ことは何物にも替え難い宝物のように思えます。当時の友人たちとは今なお酒を飲んだり、ゴルフをしたり、情報交換したり、おそらく今後も生涯に渡る付き合いを頂けるものと思います。潮陵高校での経験や思い出を抜きにして今の私は有り得ません。

具体的な経験やエピソードは、関係者にご迷惑がかかる可能性がありますのでご容赦ください(笑)。

#### ■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

小樽は、私の生まれ故郷であり、高校卒業まで育ててくれた人生そのものです。祖父母や両親、兄弟との思い出もあります。

その小樽は、日本を代表する作家や政治家、芸能人を多数輩出しています。こうしたことも、自分が東京へ出るという夢を抱かせてくれた大きな原動力になったことは間違いありません。また、港町小樽の海の向こうにはロシアがあります。子供のころから海の向こうへと思いを巡らせてきました。

#### ■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

人生は長い、どんなことでも良いので、夢を持ち、その夢を実現させて欲しい。

簡単に諦めることをせず、歯を食いしばってでもやり抜いて欲しい。

潮陵の先輩たちには素晴らしい方が大勢います。

あなたも負けずに頑張ってください。

#### ■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

海外での現地企業との取引、日系企業の海外進出サポート、又は、コンプライアンスの専門家としてのアドバイザー。

#### ■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

あなたは自由だ、夢を持って！

#### ■お名前

— (67期・63歳・男)

#### ■経歴

1977年立命館大学経済学部卒業、在学中は勉強よりも体育会スキー部の一員として、チームワークの重要性とへこたれない気持ちを学ぶ。

海外とかかわれる仕事にあこがれ、(株)大沢商会に入社。

1984年、会社は会社更生法の適用を受け倒産、その後、更生解除、会社整理、事業売却等の荒波にもまれ、縮小しながらも、(株)大沢商会として事業を継続。



■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？  
経歴に記載した通り、チームワークの重要性とへこたれない気持ちを学ぶ。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？  
もちろんです。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？  
宝飾品の販売、海外時計ブランドの輸入販売、ブランドマネージャー、時計・宝飾部門の部門長を経て、会社経営に就く。

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？  
人々に美しいものや、良いものを届ける仕事です。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？  
商品を通じて、人とかがわりが持てること。  
国内・海外の仕入れ先、販売先、顧客、全てが商品というものを通じてつながっています。それぞれの思いを伝えることが楽しさにつながると考えます。

■問6. その職業のつらさは何ですか？  
40代くらいまでは、辛いことだらけで、楽しいことや嬉しいことはわずか1割程度でした。でもその1割が貴重で、辛いと思った9割も後になれば、そんなに辛くはなかったと思えるようになります。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？  
ある

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？  
ありません。強いてあげるとすると、読書。

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？  
好きだから。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？  
ありますが、このような場で公にする必要はないかと。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？  
人生の中で一番多感な青春時代、高校時代を潮陵で学び過ごせたことに感謝します。これらは今でも自身の礎となっています。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？  
素晴らしい自然と四季、海そして文化がある街、小樽。厳しい冬と、わくわくする雪解け、荒れた海と穏やかな海、これらのすべてが、私自身の人間形成に役立っていると思います。

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？  
校歌の3番目にこんな歌詞があります。

「煙波はるかに西はシベリア  
わがこぐ舟は涯なく行かん  
ぐ風よ叫べ波涛よくるえ  
理想の旗をかかげて行かん」

この歌詞に勇気づけられました。そして自分の人生の指針の一つだと思っています。小樽潮陵高校で学ぶことに誇りを持ってください。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？  
これからは、貴方達の時代なのだから、貴方達で考えて下さい。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。  
小樽にとどまるもよし、外に飛び出すのもよし、皆さんには、信じられないような選択肢と可能性が広がっています。自信と誇りと勇気をもって・・・

## ■お名前

山口 緑(旧姓 芦野) (67期・63歳・女)

## ■経歴

日本航空国際線客室乗務員として9年間勤務。その後、翻訳業、英語講師、ビジネスマナー講師を経て、現在は㈱みどりインターナショナル代表取締役。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？  
高校2年の冬休み、3年の春休みと、英会話を学びたくて、当時、千歳にあった米空軍基地司令官宅にホームステイをした経験があり。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？  
カルチャーショックを受けました。英語を学ぶ楽しさ、コミュニケーション能力の基礎を身に付けることが出来たと思います。

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？  
現在は ㈱みどりインターナショナルの代表として 帯や着物をリメイクしたBag、和小物、オリジナルの浴衣などを製造、千歳、成田、関空の国際線出発ターミナルにて みどり帯アーツというブランドで販売している。店頭で販売を担当するスタッフは ほとんどがJALの後輩たちで スタッフにも恵まれた会社だと自負しています。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？  
日本の美しい伝統文化を 空港という場所で 世界中の方々発信することが出来る喜びを感じています。

■問6. その職業のつらさは何ですか？  
震災後は 来日する外国人が激減、一時は不安な時もありましたが、今となっては色々勉強になったと思って

います。商品はすべて日本製、職人さん達の高齢化、廃業など、今後の国内でのものづくりへの心配があります。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

失敗というよりは挫折でしょうか…。高校在学中は 東京の大学で比較文化や国際関係を学びたいと受験勉強をしていましたが、家庭の事情もあり断念、就職の道を選びました。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

日本航空に合格し、18歳で上京、およそ5ヶ月の訓練期間を経て、初フライトはサンフランシスコでした。27歳で退職するまで、まさにJALに育てていただいたと感謝しています。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

大学で学びたいという夢があり、40歳の時に課目等履修生として 学習院大学英米文学科で3年間学びました。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

後継者を育てること

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

人生の中でたった3年間という短い高校生活でしたが、潮陵で出会った同級生、今でも励まし支え合い、40年以上前の昔話に盛り上がる同期会を楽しみにしています。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

故郷は遠きにありて想うもの…。結婚して40年近く千葉県に暮らしていますが、今でも故郷は小樽だと思っています。年に数回帰省しますが、海の碧さ、空の青さ、山の緑に癒やされています。

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

若い！という言葉の中に、私は皆さんの限らない可能性を感じます。将来に向けて 一步踏み出す勇気を持つこと、そして 努力を惜しまないこと、人との出会いを大切にし、そのつながりを大事にすること。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

たとえ失敗や挫折を経験したとしても、自分を成長させてくれたと思い、人の痛みや辛さに寄り添える人間になってもらいたいと思います。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

私がああ潮陵の坂を登って通学していた頃からもう40年以上が経ち、校舎の場所も変わってしまったと聞いています。もし変わっていないことが1つあるとしたら、私達潮陵の先輩達は、いつも皆さんのことを温かく見守っているし、元気で有意義な高校生活を送ってほしいと願っています。頑張ってください!!

■お名前

植木由紀子 (67期・62歳・女)

■経歴

1973年3月卒業 同4月 同志社大学文学部文化学科入学

1978年3月卒業 同4月(株)講談社入社

1983年結婚

1985年長女出産

1986年長男出産を機に退職、専業主婦となって現在に至る。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

大学の専攻が教育学だったため、教員免許(高校教諭)をとる勉強をしました。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

直接、役に立ったわけではありませんが、知識を広める点では役に立ったと思います。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

出版社で、月刊少女漫画誌の編集に携わりました。

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

- ・漫画の企画を立て、漫画家に依頼し、原稿をいただき、印刷所に入れる。
- ・付録や読者プレゼントの企画を立て、デザインを選び、印刷所に入れる。
- ・その他、関連業務。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

少女漫画の面白さや可能性を、漫画家と共に追及できること。手がけた漫画が好評を得ると、とても嬉しかったです。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

勤務時間が不規則かつ長時間にわたること。睡眠不足で倒れそうな日々でした。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

入社試験の最終面接で、役員を前に「御社の漫画は面白くない」と力説し、不合格になりました。(翌年、再受験して合格しました)

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

正直な発言が、必ずしも良い結果を生むとは限りません。聞いた相手がどう感じるか、よく考えて言葉にすべしと学びました。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

意識して学んでいることはありません。読書とピアノは続けています。

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

好きだからです(笑)

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

不要なものを減らし、身の丈にあった生活をしようと心がけています。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

のびのびと自由な校風の潮陵の3年間は栄養となって、その後の人生を、明るく前向きに生きてこられたと思います。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

坂道を歩くのが平気！ 雪も平気！

■問14. 在校生に伝えたい事は何かですか？

人生の選択肢はたくさんありますが、進める道はひとつだけです。どんな道を選んだとしても、その道を肯定することこそ、幸せにつながると、頭の片隅に置いていただけたら幸いです。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

周囲で困っている人を助ける仕事。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

人生には、上り坂も下り坂も、まさかの坂もありますが、生きてさえいれば、いつか必ず、生きていてよかったと思える日がきます。

どうぞ皆さんも、強く、たくましく生きてくださいね。

先輩の一人として、心から応援します。

■お名前

今 日出夫 (67期・62歳・男)

■経歴

潮陵在学中に国家公務員試験(初級:税務)合格

昭和48年 税務大学校札幌研修所入校

昭和49年 横須賀税務署:所得税部門勤務(個人所得税の調査事務)

昭和50年 中央大学商学部会計学科(Ⅱ部)入学 54年卒

昭和53年 東京国税局 査察部勤務(通称マルサ:脱税者の強制調査と検察庁への告発事務)

昭和59年 国税労働組合 全国会議専従(青年婦人協議会議長:国税職員の全国の青年婦人層11,000名の代表者)

昭和62年 東京国税局 調査部勤務(資本金1億円以上の大規模法人の法人税調査)

平成10年 勤続25周年の際 天皇陛下拝謁に選ばれた(全国で夫婦70組)

平成11年 沖縄国税事務所 調査課勤務(資本金5千万円以上の大規模法人の調査)

平成21年 平塚税務署 副署長

平成23年 東京国税局 税務相談室勤務(国税の電話相談事務)

平成27年 定年退職 再任用で東京国税局 調査部勤務 ~ 現在に至る

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

潮陵高校での通常の勉強

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

一般常識が身に付いていたと思うので、特に問題はなかった

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

国家公務員と2年間の休職中の組合専従

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

個人の所得税調査 ⇒ 個人で営業している人の申告額が正しいか確認する仕事

査察 ⇒ 国税を脱税していると思われる人の内偵調査及び裁判所の令状を持って強制調査して証拠が固まれば検察庁の検事に告発する仕事

法人税調査 ⇒ 大規模法人(超大規模法人:業界のベスト3含む)の法人税申告額が正しいか確認する仕事

副署長 ⇒ 税務署のナンバー2として円滑な税務行政を行うこと。職員の指導育成

税務相談室 ⇒ 納税者からの各種国税の電話による質問・相談に日々回答する仕事

組合専従事務 ⇒ 全国を対象としていたので国税庁(霞が関)内に通い、国税の職場の質的向上を国税庁幹部・人事院・国会議員等に対し、陳情・交渉を行う。

全国青年層の交流と育成

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

・調査によって、疑問点が解明されること

・調査先が何処にあるかによって全国何処でも出張して調べることができたこと

・業種・業態が様々あるように色々な人と会うことができる

・法人(業界)の秘密でも、調査の際は聴かなければならない(守秘義務があるので口外できない ⇒ 違反すれば犯罪者:懲戒免職)

・職員が多いので各種サークル活動が豊富

・組合専従により全国に仲間と友達ができた(沖縄勤務と言われても既に同部署に仲間が6人居た。全国の郷土料理が食べられた)

(国家公務員の婦人職員代表達と職場改善交渉の責任者として人事院総裁交渉を行ったこと)

#### ■問6. その職業のつらさは何ですか？

・相手の財産に直接触れることになるので心情的につらい

・時効等期間の制限があるので間に合わせるためには土日勤務(平日は超勤)

・税法は毎年変わるので日々の研鑽が必要

・相手先の業種内容の勉強と日常の会話能力

#### ■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

あまりに多すぎて何から書いていいかわからない。

#### ■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

・余計なことは言わない(良いことは言った方がいい)

・何でも過ぎるとよくない(特に20歳以上になってからの酒)

#### ■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

・人付き合い

・税法と内部処理方法(現場を10年以上離れていると現在のやり方がわからない)

#### ■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

必要に迫られて

#### ■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

いつまで現在の仕事を続けるかによって、いつ税理士事務所を開設するか？

#### ■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

・生涯の友達がいたこと(その時は分からなかったが、卒業～年を経て再会してから始まる。主治医も同級生)

・自由な校風:勉学とスポーツ ⇒ 職場内のサークル活動と人的付き合いに役立った

#### ■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

・心の故郷であり、今でも年1~2回は帰って潮陵の友達と会っている

・全国の友人と小樽を話すことができる

#### ■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

・どんなきっかけで人生が変わるか分からない

(自分の場合は、公務員試験を受ける人?と教室内で先生に聞かれたとき、皆が手を挙げたので、つい手を挙げてしまったことと2次試験の会場が小樽だった【税務】を選んだこと)

・その時その時は自分だけが辛いと思っけていても、誰かがきつと見ている

(NHKの連ドラ「ひよっこ」では:「ちゃんと毎日を頑張っけて生きてない」と良いことはやって来ない!!ちゃんと頑張っけてないと神様は気づいてくれない!辛いことがあっても頑張っけている人に幸せをあげたい)

・潮陵で、今知らなくても、将来出会いがある人も大勢いる

・若いうちは、何でもチャレンジしてください。

#### ■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

税理士かな

#### ■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

・潮陵にいる間、自由に伸び伸びと過ごしてください(職場勤めは自由がきかない)

・人を好きになってください(男も女も)

・楽しんでください

#### ■お名前

南澤 孝夫 (65期・64歳・男)

#### ■経歴

昭和46年に潮陵高校を卒業し、一浪して北大理類に入学。薬学部を卒業して、東京の製薬会社に就職しました。研究開発一筋で40年間勤め、昨年、退職しました。今は、週に2日、Z会の添削講師(中3数学)をしています。

#### ■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

大学では、一般教養と薬の基礎を学びました。一方、高校では美術部白潮会、大学では自然保護研究会に所属して多くの時間をサークルで過ごし、社会生活に必要な様々なことを学びました。

#### ■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

大学での勉強が会社での業務に直接役立ったことは少なかったです。業務に必要なことは、会社に入ってから学びました。むしろ、受験勉強を通して仕事に必要な基礎力と集中力を鍛えられたように思います。一方、サークルで先輩、同期、後輩と過ごした時間、経験は、社会

に出て仕事をしていく上で、とても役立つと感じています。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

大手製薬会社から独立してできた放射性医薬品企業の研究開発職です。創立10年目の100人に満たない会社でした。

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

ラジオアイソトープを使った診断薬と治療薬の研究業務と、臨床試験等でそれらの薬の安全性、有効性を確認し、厚生労働省から医薬品として承認を得て患者さんに提供するための開発業務を行ってきました。アルツハイマー型認知症、心筋虚血や癌の診断薬、癌の治療薬等です。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

究極は、自分が関わった新薬が世に出て、患者さんの病気の治療に役立つことです。ただ、日々の研究の試行錯誤が純粋に楽しかったです。自分が担当責任者として開発した新薬が、売上No.1になって経営に貢献したこともうれしかったです。

就職の際、大手製薬会社の営業職と、この会社の研究職の2つの選択肢があったのですが、こちらを選んで正解だったと思います。若くて活気があり、会社の成長とともに、自分も成長することができました。若いときから、大手では経験できないような様々な経験をすることができました。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

研究開発には長い年月と多額の費用が掛かりますが、製品化まで辿り着く成功確率が小さいことです。開発の途中で失敗が続いたときは、苦しかったです。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

自分が責任者として開発していた新薬の承認が厚生労働省から得られず、開発中止になってしまったことです。会社と一緒に仕事をしてきた仲間に迷惑を掛けてしまいました。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

薬の承認審査基準が、日本独自の基準から欧米の国際基準に変わった時期でした。今で言うグローバル化です。それまでに手掛けた新薬が順調に承認を得たため、仕事のやり方を変えることができず、新基準への対応が後手後手となってしまいました。企業も個人も、生き残るためには過去の成功体験を捨て、常に最新の情報を取り込んで変化し続けなければならないことを学びました。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

・英会話には苦労しました。いくつかの英会話スクールに通いましたが、なかなか上達しませんでした。会社に入ってから英語力を上げるのは至難の業です。吸収力の高い学生時代に、英会話だけは身に付けることを強くお奨めします。会社では、新入社員の採用面接も担当していましたが、人柄の次に英会話力を重視しました。

・Z会の添削講師を始めましたので、数学を勉強しています。高校で挫折しましたが、あらためて勉強し直すと、面白いです。

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

・仕事で付き合う企業や研究機関の多くが欧米にあり、国内企業も外資系は幹部が欧米人ですので、英語でのコミュニケーションが必須でした。社会に出たら国語力が最重要ですが、英語力がある人は重宝されます。

・退職後も何かやるなら、子供に勉強を教えたいと考えていました。数学は論理的で答えが1つなので、教えやすいです。毎週送られてくる添削問題を、まずは自分で解いています。時間はたっぷりあるので、解けるまで考えます。時間が掛かりますが、考える力が身につきます(今更ですが)。また、答案から生徒の思考過程がよくわかるようになります。昔は、すぐに答えを見て解法を覚えていましたが、大学受験でも、大学に入ってから苦労しました。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

退職して、ようやく自由な時間ができたので、本当に好きなことに時間を使いたいと思っています。学生時代に戻って、山登りと旅行と読書三昧。それから少しの社会貢献と女房孝行です。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

小樽潮陵高校は、伝統ある名門校です。潮陵出身であることを誇りに思い、自信を持つことができました。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

海と山に囲まれた自然豊かな場所。冬の灰色の海と短い夏の青い海。自分の人格形成に、小樽の環境が強く影響していると思います。今も、海の近くに住んで、毎日、海を見に行きます。

■問14. 在校生に伝えたい事は何か？

\*自由を謳歌できるのは大学時代のみです。大学に入って思う存分、楽しんで下さい。大学時代の様々な経験が、その後の人生に大いに役に立つはずですよ。

＊社会に出たらチームプレー。周りから信頼される人になって下さい。そのためには、責任逃れをしない、高い倫理観を持つ、ぶれない強い心を持つことが重要です。

＊困難な仕事にあたって、現実を直視せず、過去の狭い経験の範囲でしか考えることができず、自分に都合よく解釈して場当たりの対応をし、自滅してしまうことがあります。思考停止状態です。失敗の本質は、ほとんどここに 있습니다。現実から目を逸らさず、確実に仕事を成し遂げることを第一とし、そのための方策を考え抜いてください。

＊人生の岐路に立った時、自分の直感を信じて選択してきました。その選択が正しかったかどうかは、比べようがないのでわかりませんが、選んだ道を信じて努力することで、結果としてその選択が正しかったと思えるようになりました。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

＊グローバル化の時代では、日本のオリジナリティーが最大の強みです。日本の文化に根ざした仕事、日本の伝統を取り込んだ製品は、将来性があると思います。マーケットは、世界です。

＊自分の好きなこと、得意なことを一生の仕事とするのが最善です。それが何かを、十代のうちに見つけて下さい。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

これから大学に入り、社会に出て、社会人としての長い人生が始まります。どの大学に入るか、どの会社に入るか、どんな職業に就くかは、もちろん大事です。ただ、そこはあくまで出発点であり、その後、どれだけ地道な努力を積み重ねることができるかで、ゴールは変わります。一日一日を無駄にせず、努力を積み重ねて行けば、自ずと道は拓け、充実した未来が待っていると思います。

■お名前

佐々島 宏 (65期・64歳・男)

■経歴

2 浪・建築学科大学卒業・舞台監督・書生・設計事務所起業 1980 年・特殊建築物・海外案件・まちづくりなど継続・バブル崩壊後建設系コンサルティング・土業コンサルティングファームなど 14 社起業・大学講師 & 本省委員 & 都教育委員など公職歴任・外資系会社役員 & 技術顧問、色々な経験を通して学び、現在も継続中。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

在学中に建築学を学んだ以外に、文化部連合会の常任委員長として他大学との交流も含め色々学んだ、また、数多い建設系アルバイトで資格を取り、街づくりイベント等のプロデュースを行い目指す建築設計を実戦で学びました。

設計事務所の徒弟制度化に入るしかなく、¥5 万/月で、所属の先生からだけの情報量だと満足ができず、設計事務所を 1980 年に起業。

※当時、「ベンチャー」と言う言葉は無く、父には「無謀」と言われつつも協力してくれました。

※後日、大卒スタッフを雇用して、¥5 万/月程度しか役務の提供はされないことを確認、後は、教育投資をしているようなもの、1~3 年のインターン期間が必要な事を確認した。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

学業で学んだ事は、ほとんど役立たなかったが、その期間中の他の経験がとても役立った。ただ、集中する精神力は、学業の学びの中で得た重要な訓練だった。また、教育の自分に対する理不尽さへの反骨精神が養われ大きなパワーと成った。数々の起業する事に躊躇が無かったのもこの経験が役立った。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

基本的に、「調べる・較べる・並べる」事から、シミュレーションし、予見と自己否定検証の繰り返しの中から条件を見出す「スキーマティング・デザイン」与条件の決定が中心です。

・1 級建築士取得後、すぐ起業。設計事務所代表 37 年

・講師 23 年(兼務)

・建設系コンサルティング会社役員 2 年(兼務)

・土業 300 名のコンサルティングファーム代表 2 年(兼務)

・商品開発 & 業態開発など上場会社のコンサルティング 14 年(兼務)

・建設会社役員 5 年(兼務)

・外資系会社役員 & 特別顧問 4 年

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

・建築設計・企画・まちづくり

・建築計画・設備計画・マーケティング

・商品開発・スタッフ教育

・ナレッジ・マネージメント

・商品開発・市場開発

・技術顧問・問題点の解決

・属性分析

・執筆 & 講演活動

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

- ・新たな人との出会い
- ・新しい事への好奇心の充足
- ・一緒に活動するメンバーの成長
- ・創った作品や商品の社会貢献

■問6. その職業のつらさは何ですか？

自分の実力とは無関係に、知名度やブランドや親の力で受注が決定して行く社会構造。可能な限り丸受け下請け(業務一括の決済件も含めての受注)・海外案件や特殊建築からのアプローチしかできなかった事。いつまでたっても新しい案件での勉強をし続ける必要がある事で、スタッフが付いてこれなく辞めていく事です。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

ある。失敗の連続。成功の数が少し多しだけ。時間もたっているので飲んだ席で話す事が可能だが、守秘義務があるので、文章では書けない事が多い。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

自分にとってこれまで理不尽と考えていた事にも、決して正しくは無いがそれにも理屈がある事、その理屈を解き明かす為には、文化の違いを明確に先行把握する事が必要である事を学びました。

「博物学」や「属性分析」により、色々なシミュレーションをする事を学びました。

後半この「属性分析」の能力で、商品開発や中間消費物の市場開発など、オリジナルなスキルを身につけ、仕事に役立ちました。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

「経営」については、17年設計事務所を継続後、経営コンサルティングとグループ結成し、経営の大切さを初めて学んだ。なぜこんな簡単な事を、学校で学べないのか疑問に思った事と、微積分の分野なのに、文科系に経営学がある事に問題点も感じた。

「マーケティング」については、街づくりや商品開発・市場開発には不可欠で、独学に加え、主に海外でご活躍していた先輩から少しづつ教えて頂いた。

「文化の違いと交流」海外での仕事で感じた事を、日本での小さな文化の違いでも、同様の事がある事を見つけました。この事をみなさんに、見方・解決方法など伝えられるように勉強中。

注:英語は苦手中の苦手なので開発途上国英語レベルで何とか対応、伝える必要がある内容を主に考えています。

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

- ・一番の理由は、自分の好奇心と考える。

・業務を遂行する為必要に迫られて、短期に集中し学ぶ必要性があった。

※必要は学びのモチベーションの母です。英語だけはもう少し中学高校時点から学ぶべきだった。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

・「NPO みんなの住まい」で、外国留学生向けシェアハウスや高齢者向けシェアハウスを推進中。

・文化交流の先頭を切って、トラブルの原因は文化の違いが大きな要素である事が解り、その調整を図る仕事を考えています。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

・数学は進んでいたの、大学が大学だったので数学は潮陵で教えて頂いた事より低く楽だった。また、数学だけは、塾のアルバイトなど活用できた。

・たまたま回答できる事でも優秀な人にしか答えさせず、点数の低い順番から回答用紙を返却など、劣等生であったし、入学した大学も現役推薦で入れたと進路指導部の先生に言われ、学業ではあまり良い思い出は無い。

・逆に、サッカー部の設立に奔走し、浪人中まで全道大会引率までサポートした事は、インキベーションの最初だったかもしれない。

・ムシロ旗や夜行会などオリジナルの行事で、色々な事を学んだ。

・一番大きい事は、それまで留辺蘂～潮見台中まで中心に居たが、急に劣等生に成り遣り場を無くし、中心に居る事がモチベーションも含め自分を高める重要な事であることを身にしみて学んだ！

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

生まれて14歳まで留辺蘂町(現在北見市)に生活し、山川を駆け巡り忍者ごっこを楽しんでいました。父が小樽潮陵高等学校の定時制の教頭に転勤の為移転、当時、都会にきた感じ、校内に家があったので潮見台中より潮陵しか選択肢が無く入学。小樽の人々の潮陵生に対する寛容さとサポートのエネルギーを感じた。浪人中も、自分の建築の進路に役立つと、材木店で木の見方など教えていただきながら、サッカー部の全道大会への旅費の調達まで応援協力配慮してくれた、小樽の街の人には救われた。

「選ばれた人」の待遇は、やる気を起こす素なのかもしれない。

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

自分の学校は、自分で構成する事です。既存の学校

を選ぶのであれば、目的があるのであればどの教授や研究を学ぶか、どの学科に入るのかが大学を選ぶ前に本来は必要な事です。

有名大学は、素晴らしい人も多いが、ダメな人もとても多い、その中で上位(学力では無く)10人に入る事が、できれば5人以内に入る事が重要です。名門校でも下に属すとろくなもんには成らない！

その10人に成ると、応援してくれる事が多く留学などにもとても有利です。

私は、東海大学に入学しましたが、入学時点から故松前総長とラジオに出演する事やリーダーとしての取り扱いを受けた事が、自分のやる気と好奇心を満足できる環境を整えてくれました。私の子供3人とも5番以内に入れる大学を就学前から教授との面談等で決めました。そのおかげで、リクルート・スーツを着る事も無く、就業も決まりました。

受験業者やリクルート業者の、学校や企業側と学生側双方に危機感を演出し、悪質な手口で金儲けする仕組みに踊らされずに、自分の目的に向かって歩むべきと考えます。

私は、中学生の3年に「アールト(フィンランドの建築家)」の家具の作品に出会い、それが建築家だと解り、建築家を目指し、遠回りもしましたがたどり着きました。でも、その後次々と新たな目標が現れ、チャレンジの繰り返しです。

自分探しは、山脈のふもとでウロチョロする様なものです。とりあえず山(目標)に登ると、次の山が見えるものです。大きすぎる山に登ると、木の中で次の目標は見えにくくなります。山頂に行ける山に登るべきです！

仕事は楽しいものです！今般の『働き方改革』を見てみると、仕事は、行いたく無い事を時間売りでこなすもの様な解釈をしている様に思われます。仕事は、とても楽しいです。楽しい事でないと、長続きはしません。仕事に楽しみを感じる社会技術も大切と思います。例えば、肉体的につらい仕事に生まれたのも「労働歌」です。

私の設計事務所では、設計は楽しいので時間を忘れて夜中まで仕事をしています。それで、利益は無いに等しいです。創業25年を迎えたあたりより、コンサルティング業務を午後5時までに終わらせ、設計は5時から道楽でスタッフ一同がんばりました。現在でいえば「ブラック企業」ですね。その元スタッフから、現在、色々な会社で管理職ですが、若者のスタッフが仕事を楽しさまで持ちあげられない事を聞いています。でも仕事は、達成できた時に、自分の存在感を含めとても気持ち良く楽しいものです。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

もうすでに、アニメは世界に普及していますが、その技術教育機関があるのも日本です。日本の世界で希に見る技術は、「技術・文化の教育技術」です。

同期65期の奥芝君(斗南病院院長:腹腔鏡手術のトップ5の一人)から、腹腔鏡施術の術式は米国開発だが、現在は日本の方が進化向上しており、日本に学びに来る医者が多いとの事です。

海外で仕事する時も、日本人への尊敬心は、戦後東南アジアに残り農業・工業などを教え地域の発展に寄与した日本人がいるからの様です。

飲食でも、見える化を小さな店でも昔からサンプルが店頭ショーケースに入っている国は、日本だけ。世界中飲食業で、どの国の料理も日本に居ながら食べる事ができ、¥3万~¥300/食まで巾があり、桁を違がった食事でおなかを壊さないクオリティの高さは日本だけで、この文化は世界に普及すると思います。これも、社会技術教育普及の力です。

色々な日本の資格制度は、海外で通用するようになっており、日本で資格を取ると、10倍の給与に成る国もたくさんあります。

観光入れ込みを単に観光地巡りと解釈すると、失敗しますが、日本文化の伝承位の方が継続的に、もっと深く、リピーターとリレー・リピーターが増加し可能性ある仕事と思います。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

あなた方の先輩は、年齢が高くなるほど優秀でエリート道を歩んだ人が多い。時代は変化していますが、文化レベルが高い人が多く、質問に答えを出せる人がたくさんいます。いつでも頼りにしてください。

一般に、同窓会は、成功した人とその方を支援する方々、ビジネスや学問で名声を馳せた方でないとお席にくく、自慢話を聞くよりは、元気な様子の互いの確認する同期会が盛んにおこなわれています。

東京潮陵樽中会は、主婦を含め色々な経験をお持ちの方々が、時には小樽を思い、時には潮陵を思い、可能であれば応援したいと考えている人々の楽しい集まりの場所にしたいと心がけています。

是非なんでも、相談してください。

あなた方は、地域で選ばれた人ですので、希望を持ってやりたい事に進んでください。

何時も応援しています。

人は存在の動物です。自分の存在感が無ければ居たたまれないし、支援してくれる人がいると、実力を超える力もでるものです。応援する事、応援される事で



OBと良い関係を作りたいです。

■お名前

滝沢 純 (65期・64歳・男)

■経歴

室蘭工業大学大学院金属工学科卒

ナカ技術研究所 勤続3年半 開発課

本田技術研究所 勤続31年 4輪 材料部門

メカトロ系の部品開発

特殊鋼開発

42歳から管理職

49歳から5年間中国駐在を経験

帰任後 技術戦略Gr

定年後 ニトリ品質アドバイザー 現在も継続

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

金属材料一般

技術者としての一般常識

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

役にたった学び

・金属材料の一般知識 特殊鋼を理解する上での基礎知識として必須

・設計技術 技術者なら最低でも図面の理解力は必要

・材料力学

・高校程度の物理・化学・数学

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

①建築金物の技術研究所

②自動車研究所の材料部門

③中国現地自動車工場の技術部門

④家具・ホーム内装品の技術アドバイザー

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

①建築金物の商品開発(設計から試作・試験・原価計算まで技術者の必須知識を習得)

②自動車のメカトロ部品開発(電気駆動のアクチュエーターやセンサー)

③特殊鋼開発・特殊材料開発(電磁材料、高硬度ステンレス等)

④材料室課の管理職

⑤中国現地工場での技術部の管理職(現地調達部品、現地鋼板、認証)

⑥技術戦略部門(将来の技術動向調査 提言)

⑦品質管理技術アドバイザー

中国・東南アジアの提携工場の品質管理  
開発商品の品質評価

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

新しい知識を身に着けること

■問6. その職業のつらさは何ですか？

・日々変わらない基礎的な単調な仕事の連続

・失敗の連続

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

数百万円する金型を壊した

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

研究は試行錯誤いわば失敗の連続。同じ失敗をしないことかな？

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

新しい仕事につけば必ず学ぶことはあります。現在で言えば 木材の種類とか・電気回路の基礎とか

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

仕事を行っていくうえで必要だから

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

若い時は仕事ばかりだったので、もう少し趣味を伸ばしたい。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

人としての基礎知識を勉強したところ、物理も数学も次のステップの基礎になったし、歴史や古文も人としての幅を持たせてくれた。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

私の基本的な考え方のもとを作ってくれた

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

学校で習うことは直接社会で役立つことはあまりないけど、次のステップー大学や仕事に就いた時に勉強する、調べるときの基礎知識になります。

社会に出て役立つこと、

・健康と体力

・コミュニケーション力/英会話

・総合的戦略的なものの見方

・論理的なものの考え方

・人のネットワーク

・忍耐力

以上から考えるとクラブ活動は良いかも。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

判らないけど、人間との接点の仕事ははなくなるのではないのでは？ 海外(発展途上国)なら、今日本では必要性が薄れた工場管理者や金型技術者は引張りだこ。60歳を

超えてもかなりの年収(1000万円以上)をとっている人も知人に居ます。

これからは活動を海外へ広げると新しい見方ができると思います。但し日本の常識は通じません。それも勉強や経験が必要です。

起業することも一つの選択かと思えます。まあ若いうちに将来の起業に備えて自分のスキルを磨くため関連会社に就職することも第一ステップとしても良いと思います。中国では起業する若い人がとても多い。彼らはマネーはいまいちですが、自分のためになるなら努力を惜しみません。チャレンジャーです。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

明るく、積極的に、いろいろなことに興味を持って失敗を恐れずチャレンジしてください。

若いことはいろいろな可能性があること。できれば早いうちに人生の目的目標的なものを作ると、より人生が楽しくなる。

■お名前

R.T. (65期・64歳・男)

■経歴

理系の大学卒業・大学院修了、米国で研究員を3年間経験、30歳で国内の大学教員となり、その後3つの大学を転々とし、来年65歳で定年を迎えます。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

専門は化学ですが、大学院時代に偶然、禅寺に6ヶ月ほど居候することになり、住職や同居の牧師の卵(神学部の学生)と酒を飲みながら日々夢を語ったことが人生の糧となっています。この時はじめて、自然科学・宗教・仏教哲学の関係を自分でも考えるようになりました。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

「思想のない自然科学の研究は、単なる科学ゲーム遊びにすぎない」と思うようになり、自分が行っている研究の意義を考えながら仕事を進めるようになりました。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

35年間大学教員です。

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

一般的には学生にたいする講義・演習・実験指導となっていますが、一人前の学生を社会に送り出すことが最大の目的です。そのためには卒業論文や修士・博士論文の指導をする必要があり、学生の学会発表・論文投稿の指導、および研究費獲得が実質的な仕事となります。また、力量不足ながら、必要な学生には人生・生活相談もします。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

指導した学生が研究で大きな発見をして、独り立ちできるまでに成長してくれた時です。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

自然科学の研究を行うに当たって、他人のまね事をするのはタブーですので、いつも新しいテーマ設定が必要となります。研究の意義付けを考えながら新しいテーマを試行錯誤で見つけるのは、至難の業です。軌道に乗るのに通常5年ほど、すべてが理解できるまでに更に10~15年ほどかかります。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

新しい研究テーマ設定では、いつも失敗の連続です。慣れましたが。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

失敗をすることにより、物事を本気でいろいろな角度から考えるようになるので、それまで気づかなかったことにも気づくようになり、新しい発想が浮かんでくることも多くなります。まさに「失敗は成功の母」です。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

できるだけ文化・芸術に触れる機会を作っています。

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

ひょんなことから、工芸作家・仏師・能楽師・舞踊家と知り合うようになり、かれらが考えていることは、表現方法こそ違え、自然科学者ときわめて類似していることに気づかされたからです。かれらの作品や舞台の鑑賞は、私に大きな影響を及ぼしていると思っています。自然科学にも芸術と同様に「理屈の美」が必要と思います。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

目の前の仕事をこなすのに追われて、漠然としか考えたことはありません。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

高校生時代は、自分に何ができるのか見当が付かず、将来にたいする不安から、教員の方々のご指導にしたがって、ひたすら学習に徹した記憶しかありません。しかし、この時の学習のおかげで、大学生の4年間は単位取得に苦勞することなく余裕をもって過ごすことができました。また、大学院生と教員時代の研究のための学習方法(記憶と論理付け)は、高校時代の学習方法をそのまま継承するだけで十分であり、たいへん楽をさせていただきました。おかげさまで、学生・院生時代は時間をもてあまして麻雀と酒に明け暮れておりました。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

4歳から18歳まで過ごした、山と海に囲まれた自然の美しい坂の多い街小樽の印象は強烈です。今も、父親の友人の画家から手に入れた、小樽の街をモチーフとした油絵を部屋に飾って毎日眺めています。小樽商業高校の近くに住んでいましたので、小学校時代は、自然発生的少年野球チーム間の対抗試合と引き抜き合戦、夏山に入ってのザリガニ・カエル捕りや冬山のクロスカントリーなどを通じて、人間の上下関係を学び、自然との触れ合いを体験できた貴重な時期でした。

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

将来、自分は家業の跡継ぎになる、あるいは起業して会社を経営するという方は少数派であり、一体将来自分には何ができるのだろうかと不安をお持ちの方が大多数だと思います。もし後者であれば、フラフラせずに、今はひたすら基礎固めに徹してください。中でも座ってできる学習が一番簡単で効果的です。特に理系科目の新しい部分がある程度学習した後に、すぐにその範囲内の問題を自分で作成することを勧めます。これにより、学習が一方的な受け身とはならず、自分が理解していない点にも気付くはずで、少々時間がかかりますが、これは一石二鳥の学習方法となり、後日、大きな成果として表れてくるはずで、自分で十分考えたことは記憶に残りやすくなります。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

私にはよくわかりません。しかし、ニート(隙間)的な仕事であれば国内を主市場にすることも可能でしょうが、新しい市場の開拓を必要とする職種では、どうしても国内の取引だけというわけにはいかなくなると思います。私は、今日の英語(独仏伊語等を重要視しない)偏重教育には大反対ですが、外国市場開拓も視野に入れるならば、現在慣習的に公用語とされている英語の存在を無視できません。将来、何か新しい職種に挑戦しようとお考えの方には、高校時代に英文法をしっかり学習することをお勧めします。英語力は文法力が基本です。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

皆様はご自分の将来について不安の日々を過ごしておられることと思いますが、10年先20年先を見据えて目標を立て、日々小さな努力を積み重ねて行く他、道はないと思います。なぜならば、結果が大事なのではなく、そのプロセスが重要であり、それが後にその人の実力となって表れるからです。

私が現在勤務している大学は難関校の一つですが、入学した学生を見ていると、将来の目標に向かって着実に歩んでいる学生もおりますが、留年者も多く、大学に

何をしにきたのだと檄を飛ばしたくなることも度々です。あこがれの大学に入学したものの、何をしたいかわからないということのようです。記憶力がずば抜けてよいだけで大学に合格してしまった学生によくみられる現象です。日々精進し、何か失敗した際にはその原因を探って改善策を考える地道なプロセスの繰り返し、将来大きな花を咲かせると考えてください。

■お名前

小森 茂 (64期・65歳・男)

■経歴

潮陵卒業後、横浜市立大学商学部(西洋経済史)。大学卒業後、東京都教職員へ。中学・社会科の教師となり、59歳引職後、年金生活へ。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

西洋経済史。ロシア革命前史のゲルツェンなど学ぶ。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

歴史の授業で――。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

教師。大学時代苦学生で、バイトいっぱい。

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

知的障害児の養護学校でも何年か働く！

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

生徒とのふれあい、卒業後のつきあい、のみ会等々。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

いろいろありました。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

楽しい小樽の青春時代と大学への勉強(蟻川(地理)、白鳥(世界史)、先生にめぐまれた)。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

母が長生きして、家族で帰省し一緒に温泉旅行した。親孝行できた。

仲間とののみ会(なつかしく楽しい)。

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

勉強だけはしろ！

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

すべてに可能性あり。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

できれば“甲子園”へ。ぜひ応援したい。北照に負けず

に---

■お名前

志佐隆司 (64期・65歳・男)

■経歴

専門学校卒業、専門学校在学中学校職員、卒業後2年間専門学校教員、テレビ技術会社(株)東洋ビデオに入社。1年目群馬テレビに赴任、2年目以降東京放送中継部・東通中継本部で勤務。ドラマロケ、ゴルフ中継、歌番組、バラエティー番組等中継アシスタントからドラマ・音楽番組・ゴルフ中継などのカメラマンを経験。1985年つくばエキスポでカナダ館の運営・技術プロデューサーに。その後、新会社(株)エヌエスティーに移籍、中継分野・営業分野を経験、放送業界の技術プロデューサーとして、映像配信として企業の映像(社内広報)、公共施設開設広報等に参加、インターネット放送分野の実験放送に参加。ライブ収録、プロモーションビデオ製作、カーレース、企業商品、企業広報イベントと映像に関するあらゆる分野に参加した。退社後、ビデオジャーナリスト、テレビ番組プロデューサー(技術)、出版プロデューサーなどを手掛け、現在、一般社団法人国家ビジョン研究会・理事 一般社団法人グローバル教育研究所・広報顧問。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

放送に関する技術。映像技術、音声技術、照明技術、無線工学(放送局に入社するための手段)

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

即戦力ノウハウだった。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

カメラマン・テクニカルプロデューサー・営業・ビデオジャーナリスト

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

テレビ番組のカメラマン・テレビビデオ作品の技術部門のキャスティング、技術的に何を使うか提案する。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

テレビの番組を制作する。スタッフを育成する。番組企画に参加する。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

勤務時間が長い。率先して仕事を求めなければ経験値が上がらない。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

経営トップと会社運営でぶつかった。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

本来の失敗とは思わないが、戦い方に間違いがあった。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

広い視野を得るために、コーチング・経済学・教育問題・原子力問題等

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

今、所属している団体の各分野の教授・博士等の話を理解し議論に参加するため

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

今の所属団体の活性化など

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

余り規制がなかった。現在の仕事の中、岐路の時、業界に大先輩がいた。東京放送に諏訪先輩・東映大泉撮影所所長・日本アニメーション本橋先輩など、私の仕事上での岐路でお力添えをいただいた。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

海・山が近く自然に恵まれていた。

■問14. 在校生に伝えたい事は何かですか？

常に挑戦

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

仕事を選ぶとき、世の為に個を生かすという考え方をするとよいと思います。

社会に、不要な仕事はないと思います。自分がしたいと思う仕事を選ぶ。

将来性とは、成果とは何かを考えなければならないと思います。自分自身が生活のための金銭的成果なのか？古い言葉の立身出世なのか？、自分自身が生きていることの証としての成果なのか？

具体的な仕事は私にはあげられませんが、今生きている社会に貢献出来ている。そのことが大事だと思っています。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

自分の求めるべき事をどう見つけるか。いつも挑戦すべき。正解は1つではない。

■お名前

苫 孝二 (定時制64期・66歳・男)

■経歴

潮陵高校定時制時代の4年間は印刷会社勤務。1970年3月から1975年4月までの5年間は東京・新宿区にある光陽印刷に勤務。1975年5月から1985年3月まで「赤旗」新聞の記者。1987年4月に渋谷区議会議員に当選。現在8期30年。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

印刷会社を選んだのは、技術を身につけたいと思ったから。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

多くの人と知り合い、人生の不思議さを感じる。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

勤務時間が区議会開催時以外は定まっていないため、1日1日が不規則な生活になっていること。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

いろんな失敗があったけど、めげずに前向きに生きてきました。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

自分のいたらなさについて、よく見詰め、二度しないように努力はしてきたつもりです。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

議員をやめたら、小樽に戻り、好きな本を読んだり、小説を書いていきたいと考えています。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

私の定時制高校の4年間は、友達に恵まれ、いろんなことをやり、とても得がたい体験をした時代だと思っています。

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

高校時代は、社会人・おとなに向かっていく、大事な時期だと思います。自分は何に向いているのかを得ていく時期でもあると思います。それだけに悔いなく1日を過ぎていくことが大事だと考えます。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

小樽の街が活気ある街に再生できるように、私なりにとりにくんでいきたいと思っています。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

潮陵の自由な気風を存分に味わい、自分らしい生き方をつかんでください。

■お名前

四十物 実 (63期・66歳・男)

■経歴

1974年 全日空に入社。経理部、千歳空港を経て、経営企画部にて定期国際路線の開設に携わりました。その後、執行役員、監査役となり、退任。現在、小樽に住み、潮陵の先輩の札幌本社の(株)メディシスの監査役をしています。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

低開発国の発展は如何にするかを中心とした国際経済学。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

路線開発、外国航空会社との提携の仕事のとき、役立ちました。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

全日空にて、経理部(出納・財務)7年、企画9年、空港5年、宣伝2年、外航提携4年、役員10年。

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

・宣伝課長時代:森高千里、スーパーマンのCMを担当。ANAオープンゴルフを担当。

・外航提携:アエロフロート、ベトナム航空、中国の各航空会社、オーストリア航空などとの共同運行に関する仕事。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

宣伝課長として年間100億円の差配をしたこと。財務課長として2000億円の資産運用をしたこと。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

CM、CF、ポスターなど、批判が集まりやすいこと。製作には夜中になることが多く、部下たちに苦勞させたこと。資産運用は、損失を起こさないように、事故が起きないように祈る毎日でした。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

若い頃、許可申請をしていたころ、ロッキード事件が発生。内容を厳しく役人に問い合わせられ、嘘がばれそうになったこと。正直に申請をやりなおし、許可をもらうことができた。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

嘘をついてはいけないこと。正直に間違いは説明し、やりなおしをすること。悩んでばかりいてはダメ。この時先輩に相談し、やり直しを決め、役所に一緒に行っていた。その先輩とは、今も付合っています。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

小樽をはじめとした、北海道に貢献したい。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

良き友を得ることができた。柔道部での3年は、つらく、楽しい時代(故、秋野 豊 君が主将の時代)。

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

私服のだらしない姿は残念。“質実剛健”の校風をとり戻して欲しい。世界に役立つ人材となるように！

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

ボランティア。小樽を良くするために。

■お名前

佐竹 茂市郎 (63期・66歳・男)

■経歴

高校卒業と同時に税務署勤務、60歳まで勤務、現在、税理士開業

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

就職内定後、そろばん塾に通った。小学生の中に、高校生が入って恥ずかしかった。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

就職後、日商検定3級を取らなければいけなかったのが役立ったが、その後も上達しなかった。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

大学滑り止めのため、公務員試験(税務職)を受験し、大学受験しないまま税務職員になった。60歳定年まで勤めた。途中、夜間の大学に通い卒業した。

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

法人税の税務調査担当が長かった。特に、大会社の法人税調査を18年ほど経験した。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

税が正しく申告されているか、正義感を持って仕事ができること。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

あまりなかった。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

ない。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

ない。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

特にないが、現在、色々なボランティア活動をしている。それらをできるだけ継続したい。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

2年生と3年生の時の担任の先生が、論文式のテストをしてくれた。その後、職場の研修や大学(夜間)での試験の際に役立った。また、2年生の時に詩吟部を再建し部長となりその仲間とそれ以外の文化部で色々な事を自由にできた事。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

自然に恵まれた事、小学校から高校まで親友がいた事。

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

振り返ると、潮陵高校は、自由で楽しく勉強ができる環境だったと思う。よき伝統を守りながら、既存の常識にこだわらず新たな事にチャレンジしてもらいたい。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

私は、試験で職業選択しているため、どのような職業が良いか考えた事がなかったが、税務調査などで感じた事は、今、安定している企業でも、将来は危うい場合もある。絶えず自分の能力を向上させていく必要があると思う。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

はじめての大学区制で、潮陵高校に行く事しか考えていなかったのが高校での目標をはっきりしなかった。優秀な学生と、競い合い大きな目標を育てて欲しい。

■お名前

武田 立 (62期・67歳・男)

■経歴

北大→電電公社→ソニー。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

当時の先端技術「カラーTV放送の技術背景と体系」を、大学図書館に通い、独学で学びました。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

直接役立ちました。今でもカラーTV定数を覚えていません。3.57954585…MHz。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

研究職、商品開発、会社経営、コンサルタント。

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

1. コンピュータ用記憶装置高性能化の研究
2. 光ディスク(DVD)の開発と世界標準化
3. ソニー社長補佐
4. ベンチャー企業支援

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

世界初の技術や商品を世に送り出し、皆をアツと驚かせること。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

—夜道をとぼとぼ帰ること。

—上司の理解が悪いこと。

—失敗も多く仲間にも迷惑かけること。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

大勢を巻き込んだのに世に出ないモノを作ってしまったこと。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

代りの手段とくらべて、世間から見たとき、自分だけが優れている訳ではないこと。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

英語

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

—役に立ち、下手だと仕事にならないから。

—日本語だけで考えていると必ず失敗するから。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

過去の経験を若者に伝えること。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

「質実剛健」は今でも通用する。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

—自己紹介のとき、「ああ行ったことがある」と誰でも名前を知っている街である。

—歴史があり、生まれ故郷に誇りをもてる。

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

1に英語、2にコンピュータ(ソフト)を学べ。日本語のみで考えると必ず失敗する。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

私には無い。高校生がこれから向かうべきは、ソフト、フイニテック、ネットワーク。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

小樽は狭い。世界は広い。世界を遠くから眺めて理解し、そこに飛び込んで仕事をしよう。日本にいて日本語だけで考えていては、日本の中すら人生は成功しないと書いても言いすぎではない。できれば私の本を読んで下さい。『武田 立+瀬戸 著「イノベーションの成功と失敗」:同文館』

■お名前

— (61期・68歳・男)

■経歴

S42~46 大学、46~H18 都公立中学校勤務(定時制高校兼務3年間)(H4~管理職)

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

教育課程、教育実習(1ヶ月)、専門課程、「学生運動」→社会とその仕組み

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

勿論です。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

教員

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

中学校の先生(美術)

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

生徒と同じ方向を向いていられる事。その中で生徒に将来の見通しをつかませられる喜び。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

問5が成されない時。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

致命的な失敗はない。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

ライフワークとしての美術。

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

自己実現(美なるものの先に真あり)のため

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

継続

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

・将来自分がやりたい事(美術方面)について大きな示唆を得た。

・学校の自由な雰囲気が青春を育てるに良い環境であった。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

町が個々に与える印象・実態→坂の持つ独特の味、歴史文化、功利性と浪漫性  
明るさと暗さetc. そのことが醸し出す故郷小樽は好きだとさせること。

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

高校時代でしか(十代でしか)味わえないものを是非(意図してやるものではないが)。抽象的かも知れないが、自分の前にはあるはず。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

さて？

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

在校中の今、どう感じているか不明だが、きっといい学校、いい故郷と思えるに違いない(町を出ても出なくても、又出て戻っても)。だから、力一杯遊んだり、勉強したり、好きなことやったり、食べたりするのがいいと思う。

■お名前

高橋 昭 (61期・69歳・男)

■経歴

1948年小樽市手宮生(所謂、団塊の世代)  
桜小、潮見台中→新設桜町中に移校、潮陵高、北大工学部建築工学科。

1971～2013年 清水建設。～45歳 建築現場監督(旭川、東海村、埼玉、千葉幕張、茨城)。～49歳 営業。～60歳 技術系内勤部署(新宿、浜松町)。～65歳 内勤部署で再雇用後、退職。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

一般教養、体力鍛錬、就職前2年間半は建築学。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

就職1～3年目は、目の前の仕事を覚えていだけで、学びは殆ど役に立たず。その後は、役に立った。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

建設業(ゼネコン)

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

現場監督。品質、コスト、工程、安全、環境(所謂、Q・C・D・S・E)管理。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

何も無い更地にビルを建てるという、「モノ造り」に向き合う充実感と達成感。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

現場監督である自分と現場作業員(職人)との人間関係。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

品質の不具合。赤字の現場。工程の遅れ。現場での事故。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

日々の事細かな気配り管理。不具合の起こり易いポイントを把握した上での危険予知管理。人間関係の築き方。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

退職迄 学びは続く。

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

世の中の価値観が変化し続けている。施主や設計者のニーズ、建築技術が進化している---から。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

ないです。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

1. 伴侶を見つけた
2. 質実剛健の校風

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

1. 自然環境(海・泳ぎ、山・山の幸の採取、寒・雪・スキーの経験)
2. 歴史環境(過去に繁栄した街・史蹟とヒトの気概と開放的=大陸的=おおらかな風土)

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

卒業までに、「ヒトとの関わりを持つ」事に対する苦手意識を払拭して下さい。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

小樽では、観光・歴史資源に小樽独特な食文化と小樽特有な高齢者の知恵と労働力をプラスした新規事業。観光・歴史以外の資源は無いので、良好な自然・労働環境のもとで知的財産を生かしたIT関連事業。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

「出身は何処ですか？」

「小樽です」(「北海道の小樽」とは言わない)

「いいとこですよねえ」

---“小樽”の知名度は全国どこでも抜群ですので、人口12万人台の街ですけれど、決して田舎、過疎地ではありませんので、自信と誇りを持って 仕事をして下さい。

■お名前

— (60期・69歳・男)

■経歴

1970年3月 薬学部卒



同年4月～2009年7月 製薬企業にて医薬品研究開発に従事

2009年9月～2015年3月 薬学部教員

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

薬学を学んだ。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

薬学全般の知識は他学部出身者と比べ若干上回っていたようだ。その意味で(ある程度)役に立ったといえる。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

製薬企業にて医薬品研究開発に従事。

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

活性薬物を経口剤、注射剤等の投与剤形にするための剤形の検討(これを製剤設計という)。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

さまざまな疾病に苦しむ人々の治療に貢献できること。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

新薬の開発期間が長いことに加え成功確率が非常に低い。

製剤設計段階で、剤形、材料、手法等の選択において的確性を欠き設計のやり直しを余儀なくされた。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

失敗の要因分析が非常に重要であること。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

製剤設計の動向。

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

医療の進歩に即応可能な投与剤形を見極める。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

これまでの経験および資格(薬剤師)を生かし、医薬品を服用する人々に対し安全性と有効性についてよりの確な情報を伝える。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

多くの諸先輩、同級生との交流により培ったさまざまな体験は間違いなく社会人として成長の大きい糧となった。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

気分が落ち込んだ時に小樽の海と山を思い浮かべることによって落ち着きを取り戻すことができる。

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

自らの伸びしろを信じて、失敗を恐れず、挑戦する意欲を持ち続けてほしい。電子媒体の急速な発展により地球は確実に小さくなっている。一度ならず何度も日本列島の外に足を運び、他国の地を知り、他国の人たちとの交流を深めてほしい。その中から自らのあり様を探ってもらいたい。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

人々の健康を守るための仕事はこれで終わりということはないので、医療に関する仕事はこれまでもこれから大いなる可能性を秘めた仕事といえよう。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

小樽市の人口が減少している中、在校生諸君には進取の気性を忘れず強い気持ちをもって勉学に励んでほしい。

■お名前

- (60期・70歳・男)

■経歴

一般的なサラリーマン生活を送り、定年を向え、現在は年金生活を送っています。つねづね健康が第一であるとの実感があります。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

人間関係の大切さ、難しさを、学生時代に多少なりとも身につけたつもりでした。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

いずれにしても、人は1人では生きていけないということを、あらためて色々な場面で実感しました。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

製造業の会社で、販売関係を担当しました。

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

入社後1年間は工場で実習をし、その後、販売を担当し、営業一本でした。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

工場の人々が一生懸命作ってくれた製品を、お客様へ訪問販売出来た時。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

せっかく注文をもらい、納品後、クレームがついて呼び出されたことが、一番いやな思い出です。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

何事も良かれと思った事柄でも、自分自身の思い込みで、相手に対する説明不足等で結果的には全て反対の方向に進んでしまったことが多々ありました。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

勝手な思い込みで行動するのではなく、状況に合わせてのチェック、チェックで確認し、日常の小さなコミュニケーションのくり返しの大切さを身につけました。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

シニア大学に入学し、大学院を卒業し、現在、専門学科です。

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

ボケ防止と全く違った、人生経験を重ねた人々とのふれあいを大切に、吸収する為。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

出来る範囲内で、各種の勉強会、イベント等に参加し、今まで以上に人々とのふれあいを身につけ、ボランティア等で地域社会、町内会等に貢献していきたい。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

小樽を離れてから多くの時間が過ぎましたが、いつまでも、どこへ行っても、心の故郷であり、自身の誇りとしています。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

古い町、山坂の多い処、しかし、人情の厚い町。今でも、OB会等“コミュニケーション”の場合では、自慢の出来る町。

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

どんな場面でも我が故郷を忘れることなく、人々とのふれあいを大切に。いつの場面にあっても大きな声で自慢できる町であってほしい。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

最近の世の中はIT関係等、一方通行の時代ですが、やはり、人と人とのふれあいを大切に。どんな時代においても人間同士のつながりが大切であり、もう一度原点に戻って、物作り等、手に技術等をつけることを目指してもらいたい。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

いかなる場面においても我が故郷を忘れることなく、常にアンテナをめぐらせ、新しい情報を入手できる様な感性をもって、多くの人とのふれあいを大切にしてもらいたい。

■お名前

一宮廣史（60期・69歳・男）

■経歴

昭和22年(1947年)小樽生まれの団塊世代一期生です。今年古稀を迎えます。

大学卒業後、関東に在る自動車メーカーに勤務して定年退職しました。

退職後、小樽で5年半、親の介護生活を経て埼玉県に戻り、現在夫婦二人の生活です。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

大学は工学部機械工学科でしたが、サークル活動代表の経験から学んだ事もその後の人生に役立ったと思います。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

会社業務の基礎(新知識を得る入口)として役に立ちました。一方、会社での人間関係や組織活動には、サークルでの経験が影響したと思います。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

大型トラック・バスの駆動系の設計業務を約15年間勤めました。

その途中の5年間、請われて労働組合の専従役員を経験し、残りの10数年は商品企画分野での管理職と、関連会社への出向を経て退職しました。

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

自動車の駆動系や足回りの設計業務です。強度やレイアウトを検討しながら図面化し、実験部門で試作品を確認後、製造技術部門と調整しながら商品化にこぎつける仕事です。

商品企画は次期モデルの企画ですが、収益性確保の責任が重い仕事でした。ものづくりに直結する設計業務の方が自分向きでした。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

実際の設計現場では日々勉強でした。しかし未経験分野の知識を得ることと、その知識が商品に反映され、世に出て市場で評価されることは楽しいことでもあり、また一面厳しいものであることを体験しました。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

労働組合の専従役員を5年間経験しましたが、開発部門の出身で5年間も経験したのは、後にも先にも私だけだったそうです。この間には、設計業務の進め方や中味は大きく変化しており、戻った後の挽回にはいろいろと苦労しました。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

失敗経験第一号は大学受験です。浪人とも迷ったの

ですが、関東に在る私立工業系単科大学に進みました。潮陵では優秀な仲間達の狭間で、劣等意識を消し去ることが出来ずに過ごしてしまったと述懐します。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

希望する大学には進めませんでした。むしろ多少の優越感が感じられる環境を得られ、また目標としていた分野を勉強出来ました。

人生において目標から一時それてしまうことが有っても、巻き返しのチャンスを信じることの大切さを学びました。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

勉強とは言えませんが、電卓も無い頃の体験を踏まえて、パソコンの表計算ソフト(Excel)とWordを極力使うよう心がけています。

趣味はパソコンの自作と、車いじり+ドライブです。(勉強ではありません)

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

趣味の一部で、学びとは言えません。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

年に三回ほど、被災地南相馬市の仮設住宅への慰問活動に参加させてもらっています。

未だに多くの高齢者が仮設住まいを余儀なくされており、何らかの方向性が見出されるまでは続けたいと思います。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

高校時代は大学への通り道ではないはず。もう少しリラックスして潮陵時代を過すべきだったと、事あるごとに振り返ってきました。

今思うと、そうした振り返りもその時々、起爆剤として役立ってきたと思います。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

何と言っても、生まれ故郷です。

故郷を離れて50有余年、海と山々、友達の笑顔など、ひと時も忘れることが無いのが不思議と生まれ故郷でした。辛い時も楽しい時も、いつも十分に役立ってくれました。

■問14. 在校生に伝えたいことは何ですか？

二度と無い高校生活、伝統ある小樽潮陵高校生、歴史ある小樽市で過ごした3年間を、いつどんな時も心の支えとなって思い出せるように過ごしてください。

その為には、多くの友人を求め、単に進学や就職のためのステップではなく、永い人生の一コマであるこ

とを意識しながら、思い出作りにチャレンジしてください。

■問15. これから、どんな仕事の可能性があるとお考えですか？

今はかつて考えられないほど若者の活躍分野が広がっています。インターネット、SNSなどが情報の伝達速度や範囲を急速に拡大していることも昔と大きく異なる変化です。

これらをうまく活用することは大切だと思います。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

社会が成熟の過程にある時代の方が、目標を見出しやすいのかも知れません。その意味では困難な時代かも知れません。したがって、目標を見出すために、何らかの活動に時間を割くことは大いに有りだと思います。

昔、欧州への出張をアテンドしてくれた商社マンが居りました。その方は、とにかく外国で仕事がしたい一心で、高校卒業後すぐにアメリカへ渡り、皿洗いのアルバイトをしながら英会話の勉強と貯金をし、自分の目標を考えたそうです。

その結果、日本に帰国してバイトしながら夜間大学で経済学を勉強し、日本の商社に就職するという道を決めたそうです。その間の何年かは、決してブランクとは感じないと言っていました。現在は商社を退職して、ベルギーを拠点にビジネスを展開しています。具体的な事例として、参考にさせていただければ幸いです。

■お名前

井上 祐子 (59期・71歳・女)

■経歴

昭和40年3月 潮陵高校卒、40年4月 日本女子大学文学部英文科入学、44年3月 同校卒、44年6月 国際電信電話(株)東京国際電話局入社、48年3月 同社退社、56年9月 公文教育研究会 町田事務局・西戸室教室開設 ~現在に至る。

■問1. 職業に就く前に、どんな学びをしましたか？

学校でもやっていたが、英会話を学んだ。

■問2. その学びは、職業に役立ちましたか？

とても役に立った。

■問3. あなたは、どんな職業に就きましたか？

①国際電話局交換手。

②公文教室指導者。

■問4. 具体的にどんな業務や作業ですか？

- ①国際電話局にて、海外と日本を結ぶ仕事。
- ②幼児～社会人までに、英語、国語、数学を教える。外国人に日本語を教える。

■問5. その職業の楽しさは何ですか？

- ①英語を使って人の役に立てる。海外の人とも話せる。
- ②子供さん達に、できる事を少しずつ学習してもらい、本人の望む道に行けるよう、サポートする。

■問6. その職業のつらさは何ですか？

- ①海外が相手なので、勤務時間が夜勤や泊まりもあった。
- ②細かく配慮する必要があり、けっこう忙しい。

■問7. 仕事や人生で失敗の経験はありますか？

大きな失敗はないと思うが、挫折はあった。股関節の手術のため休学したので、高3を2回やり、あまり周りになじめない内に卒業し、大学に入った。しっかりがんばらないで大学に入ってしまった、後悔した。

■問8. 失敗の経験から何を学びましたか？

自分の思っていた事とは違うけれど、その道も良いことが沢山あった。与えられた環境に感謝して、力一杯生きる事の大切さを学びました。

■問9. 途中や現在も学んでいる事がありますか？

公文の英語、国語、数学の高校教材を解いている。

■問10. それは、どんな理由で学びましたか？

1つには、仕事に役に立つ、又、人としても、しらない事を学ぶのはとても楽しい。

■問11. これからの生き方で計画している事がありますか？

健康が許すなら、75歳位までこの仕事を続けたい。その間も、時間と健康が許すなら、海外旅行を楽しみたい。その後も、夫と二人、晴耕雨読で、多いに人生を楽しみたい。また、ささやかでも、人様のお役に立つ事があたら、できたら、うれしいです。

■問12. あなたにとって潮陵は今考えると、どんな役に立った事がありましたか？

私は在校生の頃、先生達がとてもすばらしいと思っていました。専門知識をもって、生徒達を導き、どの先生も輝いていらっやいました。潮陵は、故郷の誇り、私の誇りです。

■問13. あなたにとって小樽での生活はどんな役に立った事がありましたか？

海の幸が豊富だったので、海の幸が大すきになったこと、子供の頃、スキーやスケートをたっぷりやったので、関東にきては、やらなかったこと、冬の雪の大変さをよく知っていたので、大学卒業後は帰らないと決心した事、友人達が旅行で小樽に行き、「美しい所だったよ」と言って下さるので、うれしかった事などです。

■問14. 在校生に伝えたい事は何ですか？

ご自分のやりたい事を見つけて、力一杯、たのしくがんばって下さい。

■問16. 在校生に、応援の言葉がありましたら、自由にお書きください。

「本気でするなら、大抵のことはできる」

「本気でするから、おもしろい」

「本気でしているから、誰かが助けてくれる」

正範語録より

有限会社 チカラビル  
有限会社 栄伸企画

代表取締役

 **上野 淑子**

(47期)

東京都千代田区神田小川町1-7  
横浜市港北区篠原北2-13-12  
TEL/FAX 045-421-6121

 調べる・較べる・並べる

**株式会社 計**

代表取締役会長 **佐々島 宏** (65期)

東京都世田谷区船橋1-38-6 ヒライビル2F  
URL <http://www.kei-1980.co.jp>  
TEL 03-6692-0845 FAX 03-6698-6943

発行日 平成 29 年 12 月 発行人 東京潮陵樽中会 佐々島 宏(65期) 編集人 南澤 孝夫(65期)